

第 16 回大阪市エイズ対策評価委員会

日 時：令和 6 年 10 月 25 日（金）
午後 2 時 00 分～4 時 00 分
場 所：オンライン開催

次 第

1 開 会

2 議 事

- （１）H I V感染者・エイズ患者・その他性感染症 発生動向まとめ
- （２）第 4 次大阪市エイズ対策基本指針の実績及び評価について
- （３）その他

3 閉 会

大阪市エイズ対策評価委員会委員名簿

※50音順、敬称略

氏名	職業名
笠原 幹司	大阪府医師会理事
塩野 徳史	大阪青山大学看護学部看護学科教授
白阪 琢磨	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター特別顧問
村松 紀子	特定非営利活動法人チャーム 正会員
山中 京子	大阪府立大学名誉教授 コラボレーション実践研究所所長

大阪市エイズ対策評価委員会 事務局名簿

氏 名	所属・補職
中山 浩二	保健所長
村中 康一	保健所感染症対策担当部長
廣川 秀徹	保健所感染症対策担当医務監兼北部保健医療監、北区役所医務主幹
岡田 めぐみ	保健所感染症担当医務主幹兼天王寺区役所医務主幹、危機管理室医務主幹
藤岡 正人	保健所感染症対策課長
松村 直樹	保健所感染症対策課長代理
松田 貴根	保健所保健副主幹
康 史朗	保健所医務副主幹兼住吉区役所医務副主幹

○大阪市エイズ対策評価委員会規則

平成 25 年 7 月 26 日

規則第 163 号

大阪市エイズ対策評価委員会規則を公布する。

大阪市エイズ対策評価委員会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、執行機関の附属機関に関する条例(昭和 28 年大阪市条例第 35 号)第 2 条第 1 項の規定に基づき、大阪市エイズ対策評価委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 委員会は、委員 5 人以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、議事その他の会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会の会議は、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(関係者の出席)

第 6 条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、健康局において処理する。

(施行の細目)

第 8 条 この規則の施行に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成 25 年 8 月 1 日から施行する。

H I V感染者・エイズ患者
その他性感染症 発生動向まとめ

目 次

H I V感染者・エイズ患者・その他性感染症 発生動向まとめ

◇大阪市におけるH I V感染者・エイズ患者の状況について（令和5年）・・・6 頁

◇エイズ動向委員会資料（第161回委員長コメント資料）・・・11 頁

◇新規報告数に占めるエイズ患者の割合（主要自治体比較）・・・14 頁

◇大阪市における梅毒（全数報告）の発生動向 ・・・15 頁

◇大阪市における性感染症定点報告の発生動向 ・・・17 頁

大阪市におけるHIV感染者・エイズ患者の状況（令和5年）

大阪市における新規HIV感染者・新規エイズ患者（令和5年第1週～52週）の報告状況は次のとおりです。

①年次別推移

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
～平成元年	0	0	0
平成2年	3	2	5
平成3年	4	1	5
平成4年	14	3	17
平成5年	7	1	8
平成6年	14	4	18
平成7年	7	1	8
平成8年	5	2	7
平成9年	13	6	19
平成10年	25	5	30
平成11年	30	13	43
平成12年	31	7	38
平成13年	58	17	75
平成14年	55	16	71
平成15年	68	11	79
平成16年	99	17	116
平成17年	100	16	116
平成18年	118	12	130
平成19年	130	28	158
平成20年	164	31	195
平成21年	147	45	192
平成22年	165	49	214
平成23年	140	50	190
平成24年	108	32	140
平成25年	145	40	185
平成26年	130	42	172
平成27年	149	41	190
平成28年	119	31	150
平成29年	100	33	133
平成30年	95	28	123
平成31年	87	20	107
令和2年	75	19	94
令和3年	64	13	77
令和4年	63	10	73
令和5年	52	11	63
合 計	2584	657	3241

②感染経路別

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
異性間性的接触	4	2	6(9.5%)
同性間性的接触	40	7	47(74.6%)
静注薬物使用	0	0	0(0%)
母子感染	0	0	0(0%)
その他	5	0	5(7.9%)
不明	3	2	5(7.9%)
合 計	52	11	63

③年齢区分

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
20歳未満	0	0	0
20歳代	23	0	23
30歳代	19	2	21
40歳代	5	3	8
50歳代	4	1	5
60歳以上	1	5	6
合 計	52	11	63

④国籍・性別

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
男性（日本人）	35	10	45
（その他）	14	1	15
（不 明）	3	0	3
女性（日本人）	0	0	0
（その他）	0	0	0
（不 明）	0	0	0
小計： 男性	52	11	63(100%)
女性	0	0	0(0%)
合 計	52	11	63

⑤感染地域別

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
国 内	43	1	44
海 外	5	9	14
不 明	4	1	5
合 計	52	11	63

注）後天性免疫不全症候群の予防に関する法律施行後（平成元年2月17日以降。平成11年4月1日より「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に統合）、血液凝固因子製剤が原因とされる方は、法による報告から除外されています。

大阪市におけるHIV感染者・エイズ患者の状況（累計）

大阪市における新規HIV感染者・新規エイズ患者（累計：平成元年2月17日～令和5年12月31日）の報告状況は次のとおりです。

①年次別推移

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
～平成元年	0	0	0
平成2年	3	2	5
平成3年	4	1	5
平成4年	14	3	17
平成5年	7	1	8
平成6年	14	4	18
平成7年	7	1	8
平成8年	5	2	7
平成9年	13	6	19
平成10年	25	5	30
平成11年	30	13	43
平成12年	31	7	38
平成13年	58	17	75
平成14年	55	16	71
平成15年	68	11	79
平成16年	99	17	116
平成17年	100	16	116
平成18年	118	12	130
平成19年	130	28	158
平成20年	164	31	195
平成21年	147	45	192
平成22年	165	49	214
平成23年	140	50	190
平成24年	108	32	140
平成25年	145	40	185
平成26年	130	42	172
平成27年	149	41	190
平成28年	119	31	150
平成29年	100	33	133
平成30年	95	28	123
平成31年	87	20	107
令和2年	75	19	94
令和3年	64	13	77
令和4年	63	10	73
令和5年	52	11	63
合 計	2584	657	3241

②感染経路別（累計）

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
異性間性的接触	308	123	431
同性間性的接触	2050	408	2458
静注薬物使用	6	1	7
母子感染	2	1	3
その他	59	25	84
不明	159	99	258
合 計	2584	657	3241

③年齢区分（累計）

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
20歳未満	31	2	33
20歳代	939	81	1020
30歳代	980	185	1165
40歳代	441	194	635
50歳代	120	129	249
60歳以上	73	66	139
合 計	2584	657	3241

④国籍・性別（累計）

区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
日本人 男性	2322	608	2930
女性	41	7	48
その他・不明 男性	183	28	211
女性	38	14	52
合 計	2584	657	3241

⑤感染地域別（累計）

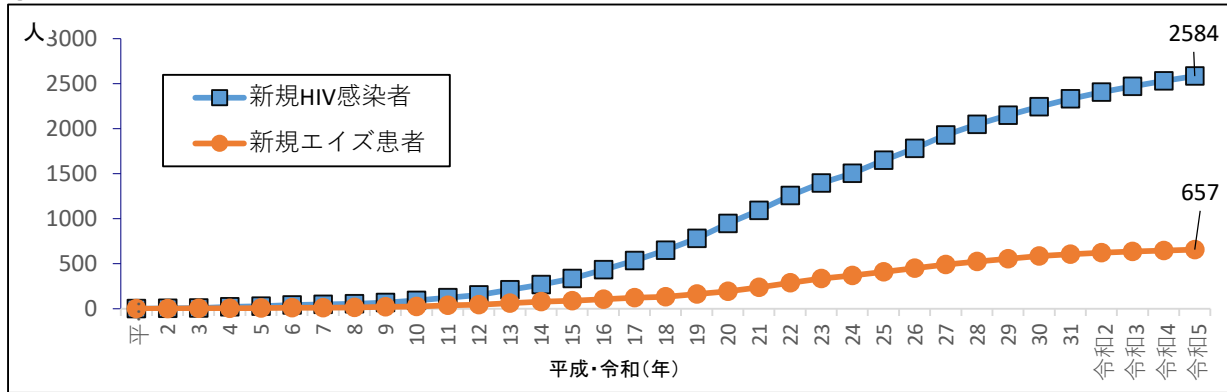
区分	HIV感染者 報告数	エイズ患者 報告数	合計
国 内	2301	522	2823
海 外	111	46	157
不 明	172	89	261
合 計	2584	657	3241

注）後天性免疫不全症候群の予防に関する法律施行後（平成元年2月17日以降。平成11年4月1日より「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に統合）、血液凝固因子製剤が原因とされる方は、法による報告から除外されています。

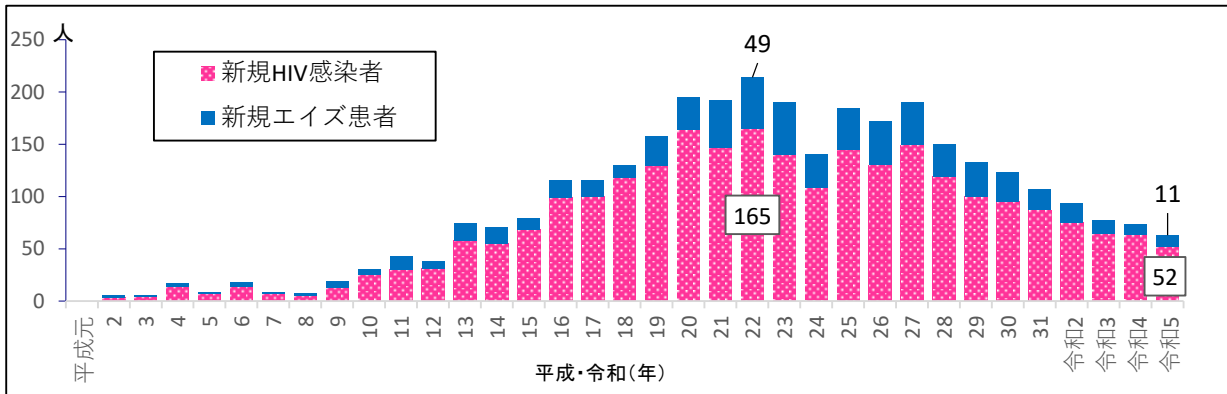
大阪市におけるHIV感染者・エイズ患者の状況（グラフ）

＜累計＞平成元年～令和5年累計 ＜令和5年＞令和5年第1週～52週報告

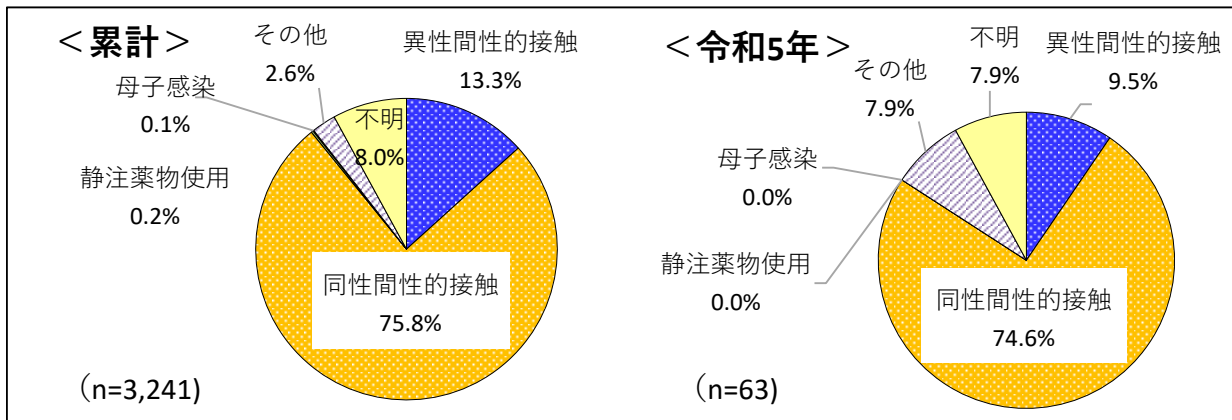
①新規HIV感染者・新規エイズ患者報告数（累計）の年次推移



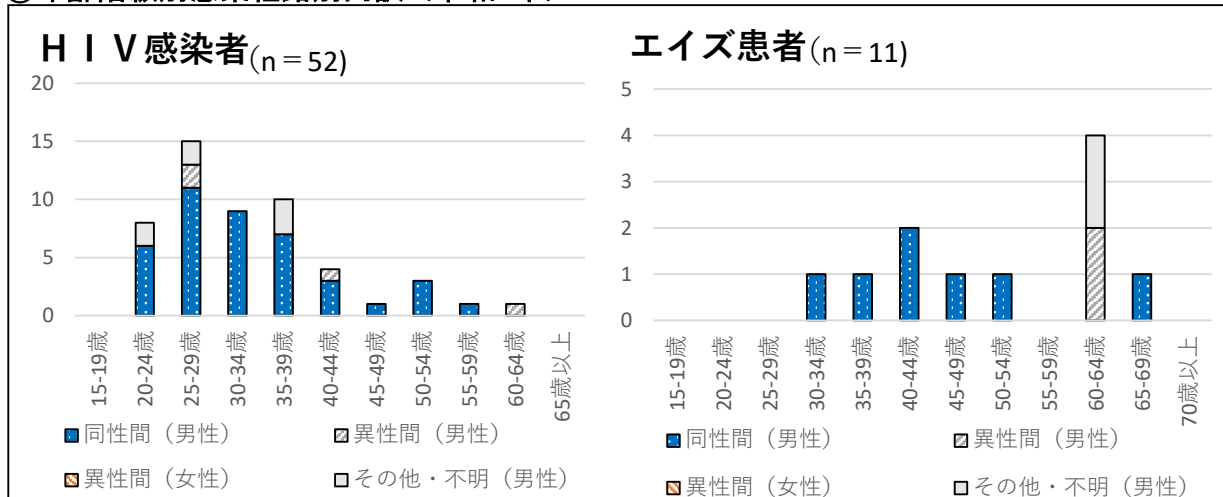
②新規HIV感染者・新規エイズ患者報告数（単年）の年次推移



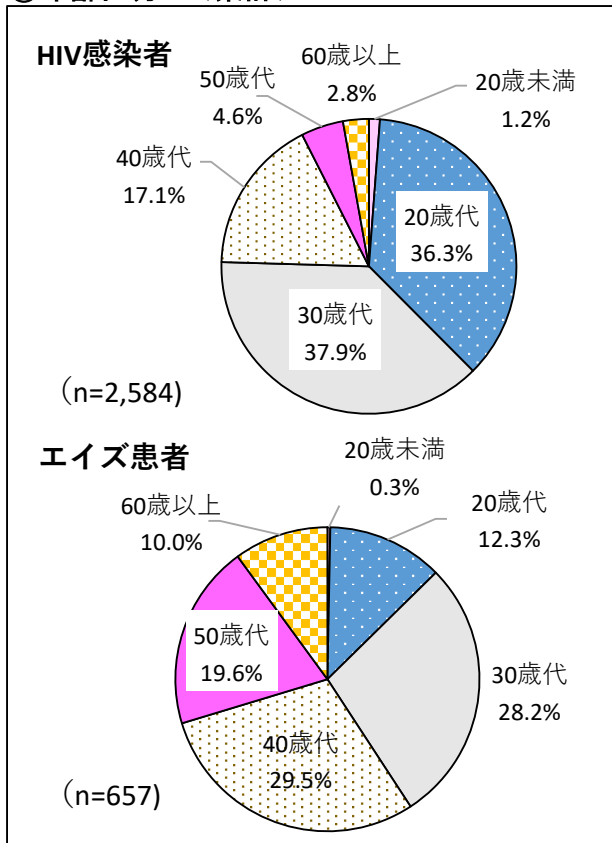
③感染経路別（HIV感染者＋エイズ患者）



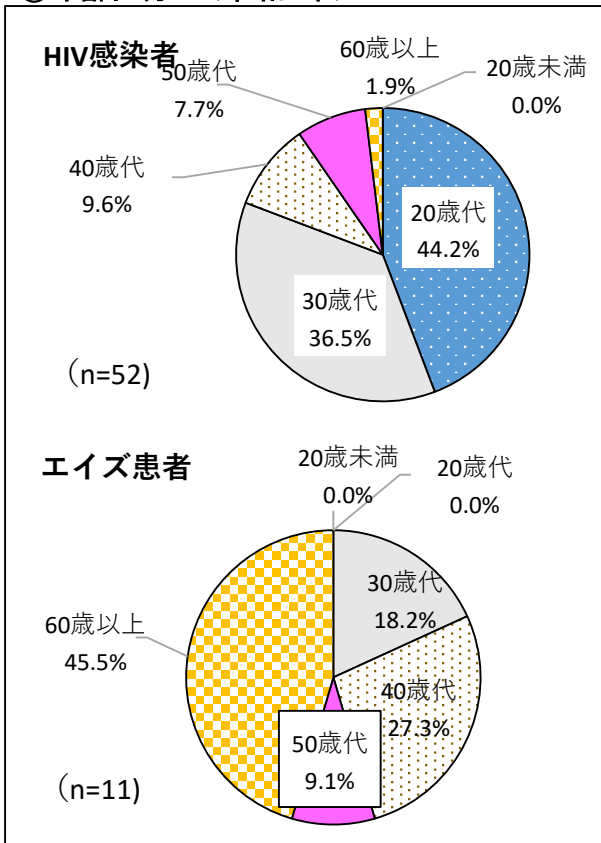
④年齢階級別感染経路別内訳＜令和5年＞



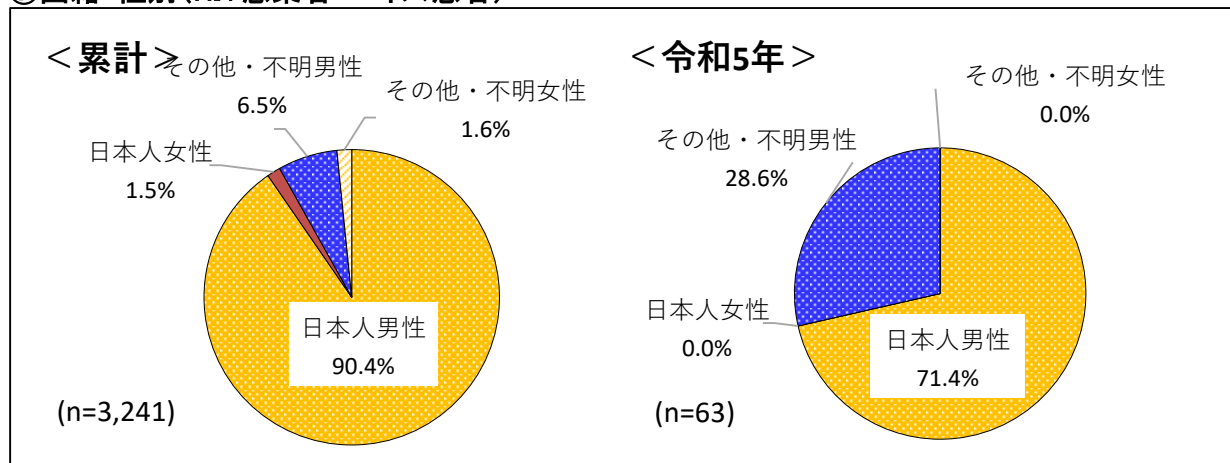
⑤年齢区分 <累計>



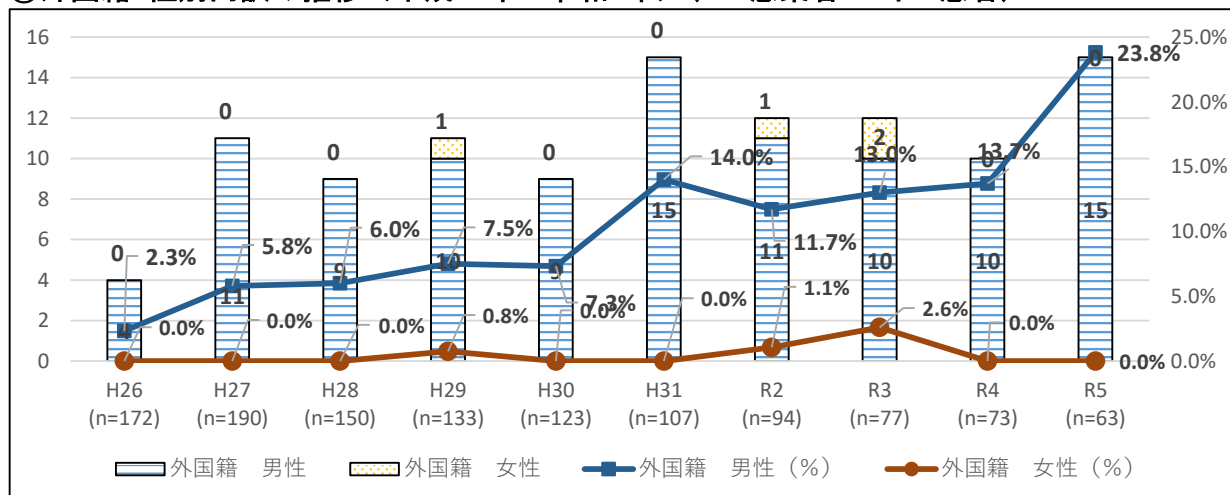
⑥年齢区分 <令和5年>



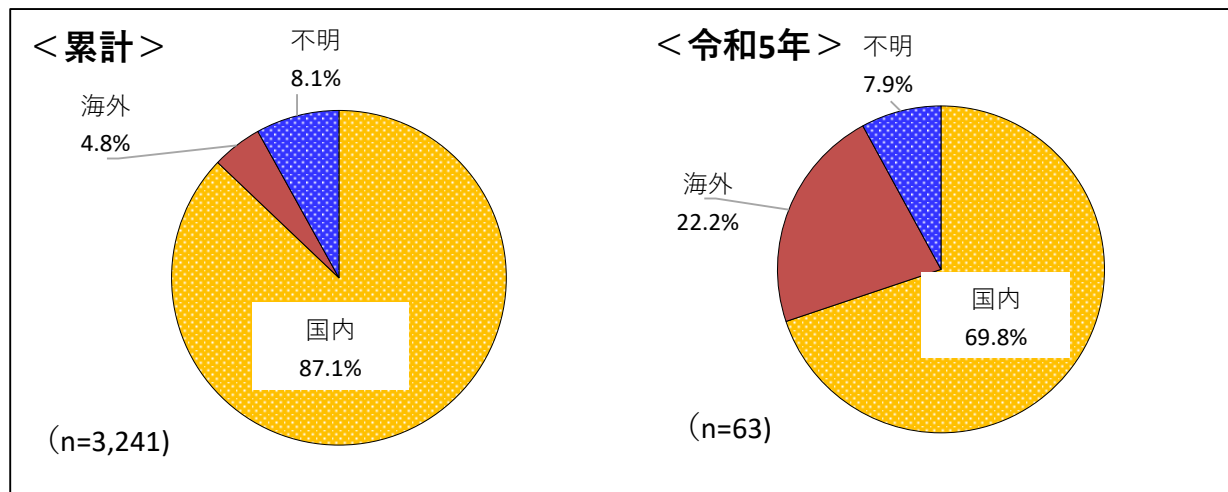
⑦国籍・性別(HIV感染者・エイズ患者)



⑧外国籍・性別内訳の推移<平成26年～令和5年>(HIV感染者・エイズ患者)

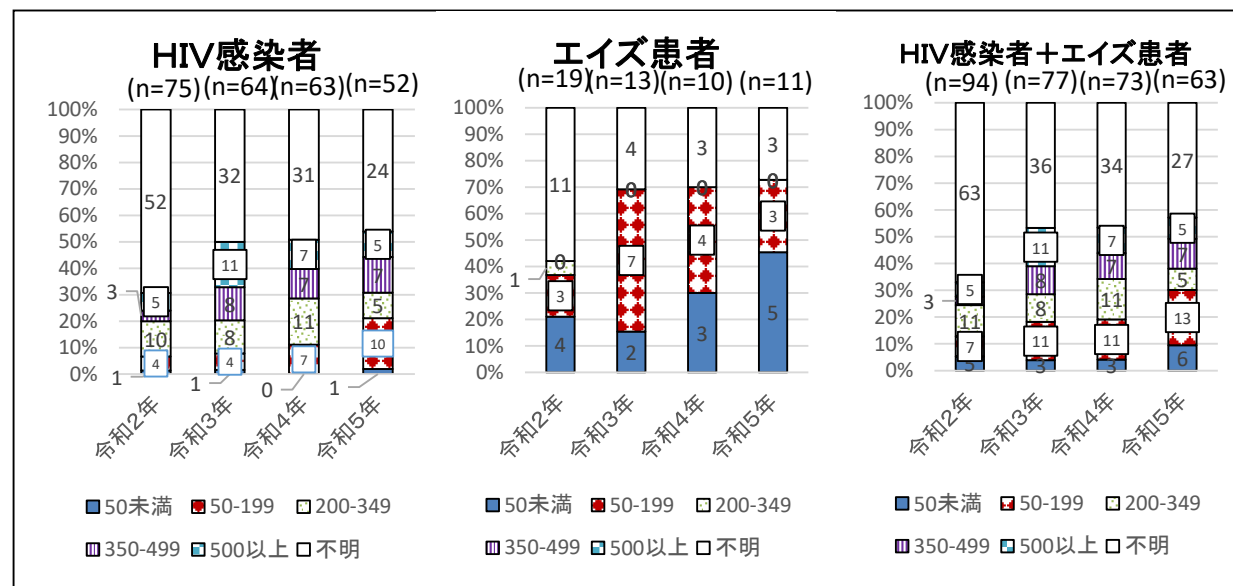


⑨感染地域別(HIV感染者・エイズ患者)



⑩新規報告数における診断時CD4値の分布<平成31年～令和5年>

※平成31年1月1日から発生届の項目に診断時のCD4値が追加された



第163回エイズ動向委員会 委員長コメント

《令和5年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和5年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、669件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、291件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は960件
（過去20年間で、19番目に多い報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが476件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが90件（全HIV感染者報告数の約13%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが157件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが44件（全AIDS患者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は106,137件
（過去20年間で、15番目に多い件数）
2. 保健所等における相談件数は86,088件
（過去20年間で、17番目に多い件数）

《まとめ》

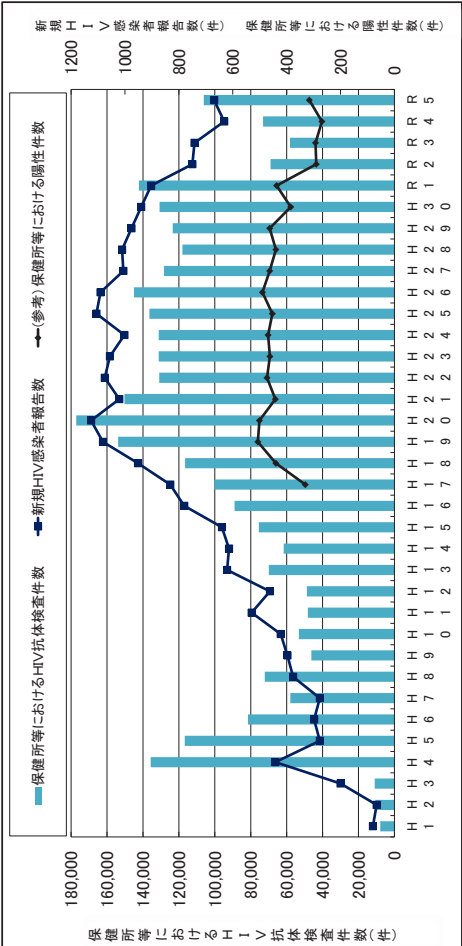
1. 令和5年の新規HIV感染者報告数については、令和4年より増加しており6年連続での減少から、増加に転じた。要因としては、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた保健所等での検査件数が回復したことが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 令和5年の新規AIDS患者報告数の増加は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、保健所等での検査件数が減少していたことが影響している可能性が否定できない点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
3. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約85%（うち約84%が同性間）、新規AIDS患者では約69%（うち約78%が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規AIDS患者ともに、男性が全体の9割を超えている。

4. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における 10 万件当たりの陽性件数は令和 4 年と比べて減少した。しかし、依然として陽性件数があることを踏まえると、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
5. 新規報告数全体に占めるA I D S患者報告数の割合は、依然として約 3 割のまま推移している。A I D S発症防止のためには、H I V感染後の早期発見が重要である。H I V感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。
6. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、A I D S発症予防のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。

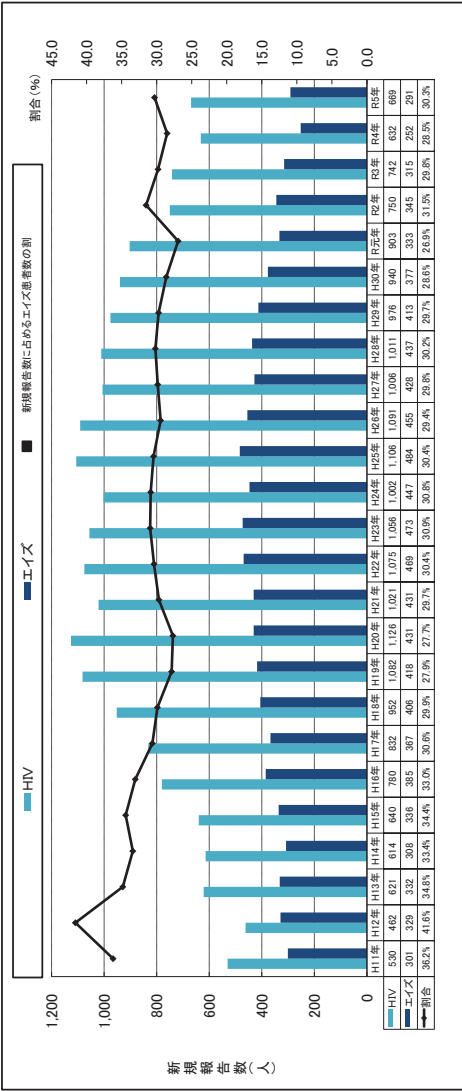
新規H I V感染者・エイズ患者報告数、検査・相談件数（年次推移）

新規HIV感染者・エイズ患者報告数																										速報値				合計									
S63まで	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5				
78	80	66	200	442	277	298	277	376	397	422	530	462	621	614	640	780	832	952	1,082	1,126	1,021	1,075	1,056	1,002	1,106	1,091	1,006	1,011	976	940	903	750	742	632	689	24,532			
39	21	31	38	51	86	136	169	234	250	231	301	329	332	308	336	385	367	406	418	431	431	469	473	447	484	455	428	437	413	377	333	345	315	252	291	10,849			
117	101	97	238	493	363	434	446	610	647	653	831	791	953	922	976	1,165	1,199	1,358	1,500	1,557	1,452	1,544	1,529	1,449	1,590	1,546	1,434	1,448	1,389	1,317	1,236	1,095	1,057	884	960	35,381			
＜上段:HIV感染者報告数 中段:エイズ患者報告数 下段:HIV感染者・エイズ患者の合計＞																																							
保健所等におけるHIV抗体検査件数																																							
S63まで	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5				
47,470	7,864	10,649	10,980	135,674	116,712	81,495	57,978	72,186	46,237	53,218	48,218	48,754	69,925	61,652	75,539	89,004	100,287	116,550	153,816	177,156	150,252	130,930	131,243	131,235	136,400	145,048	128,241	118,005	123,432	130,759	142,260	68,998	58,172	73,104	106,137	3,355,590			
(参考)保健所等における陽性件数																		331	440	507	501	442	473	462	489	453	490	463	440	385	437	290	293	269	316	—			
保健所等における相談件数																																							
S63まで	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5				
132,004	14,603	17,458	18,002	251,926	245,299	175,837	124,735	172,641	96,735	111,046	103,206	107,266	141,269	108,911	130,153	146,585	161,474	173,651	214,347	230,091	193,271	164,264	163,006	153,583	145,401	150,993	135,282	119,378	123,788	127,830	129,695	66,519	54,551	67,009	86,088	4,757,877			

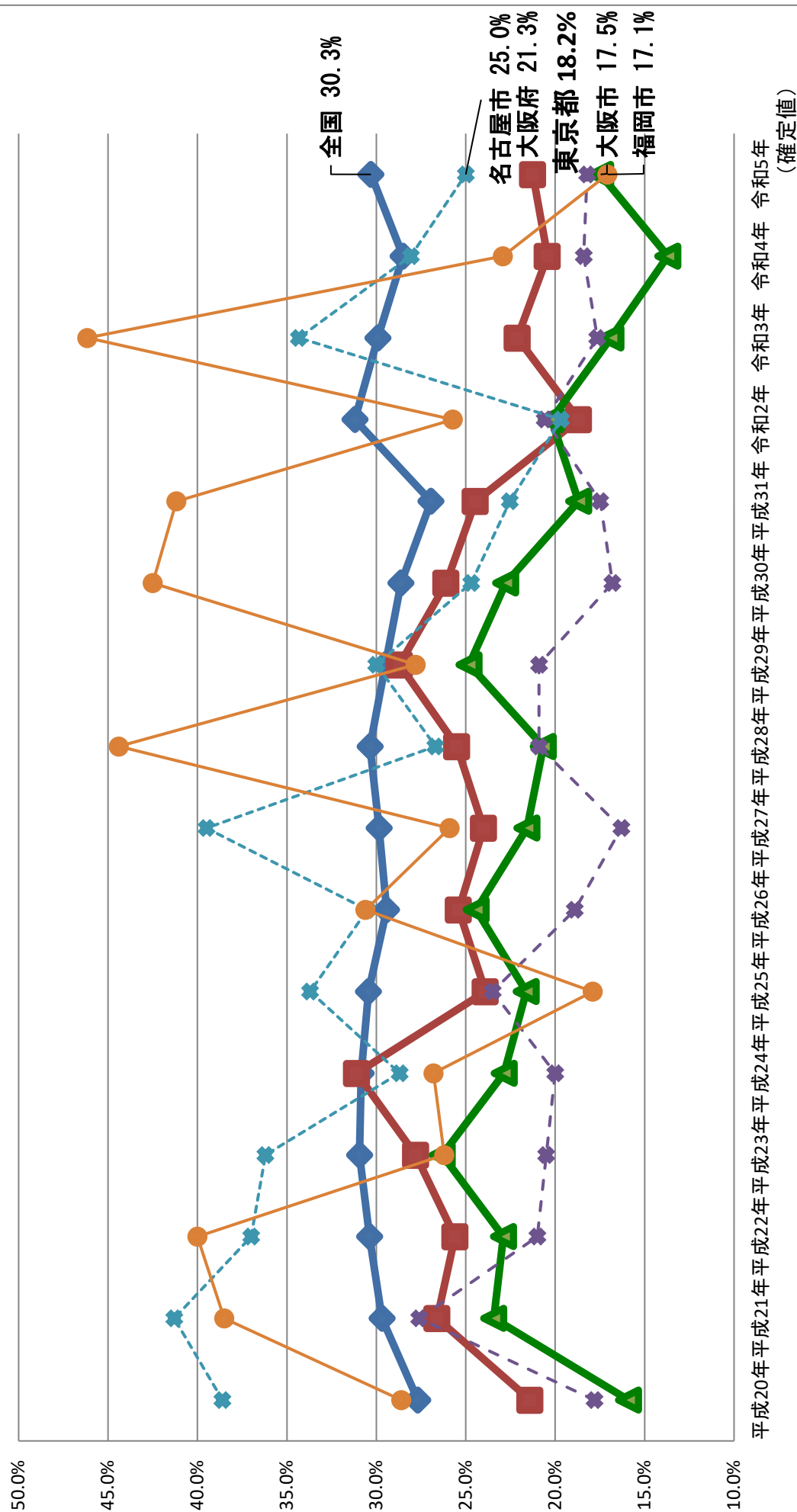
新規HIV感染者報告数、保健所等におけるHIV抗体検査件数



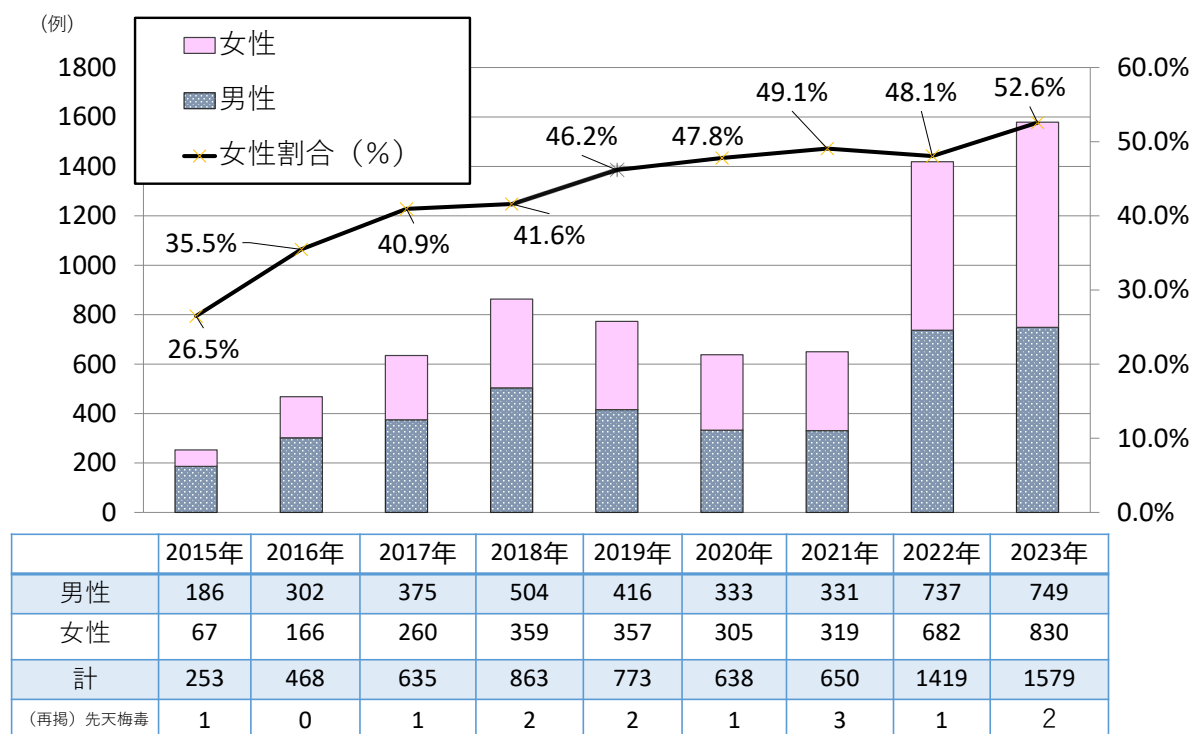
新規HIV感染者・エイズ患者報告数に占めるエイズ患者数の割合



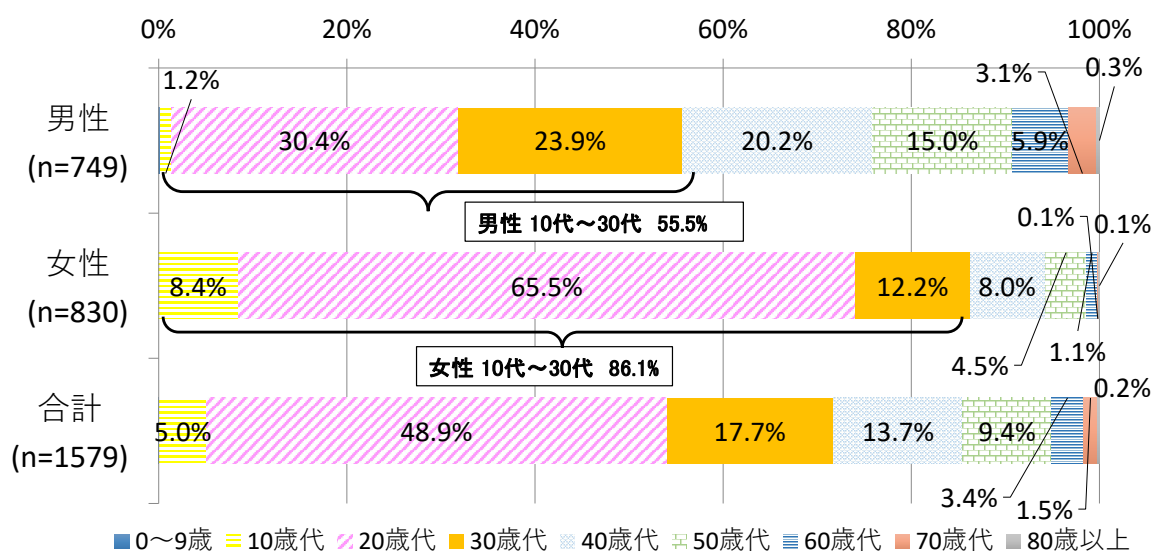
新規報告数(HIV感染者+エイズ患者)に占めるエイズ患者の割合



梅毒報告数の推移（大阪市） ※梅毒は全数報告（医療機関所在地）

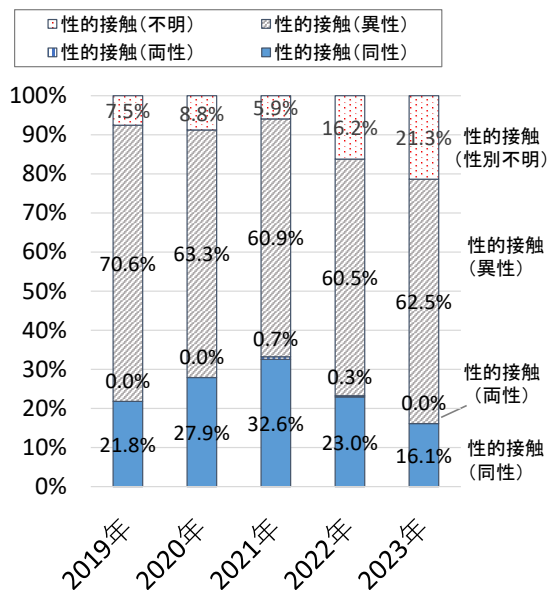


梅毒 男女別年代別割合（大阪市/2023）

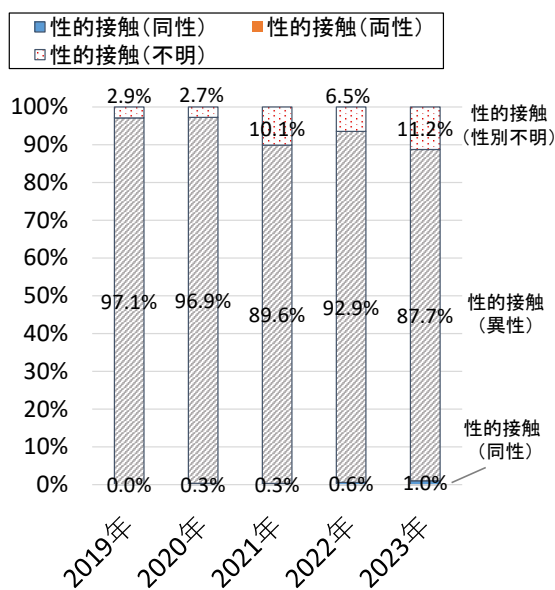


感染経路別届出割合推移（性的接触のみ）

男性



女性

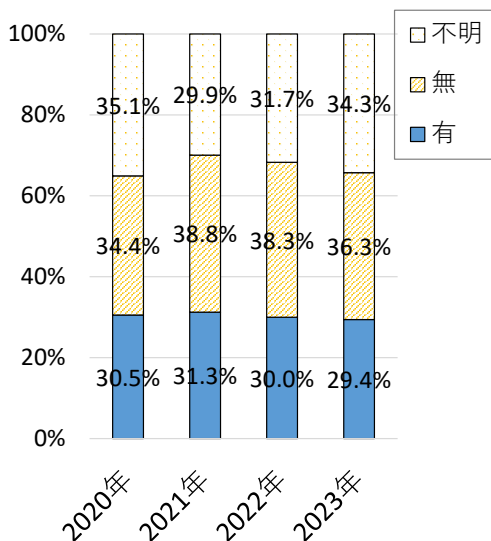


男性間性的接触の割合は減少傾向

性風俗産業（直近6ヶ月以内の従事歴・利用歴）

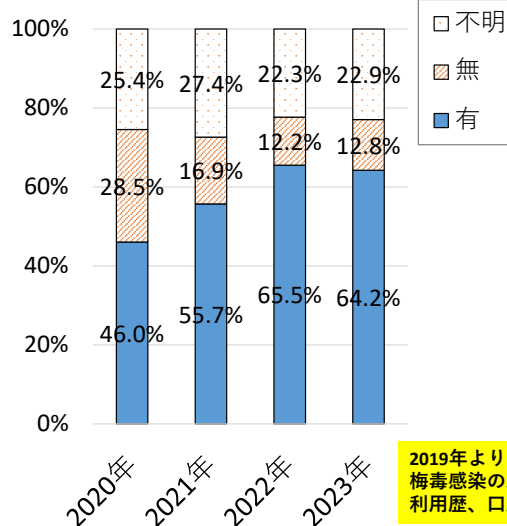
男性・利用歴と女性・従事歴 報告数推移

利用歴 男



男性のうち「利用歴あり」は横ばい

従事歴 女

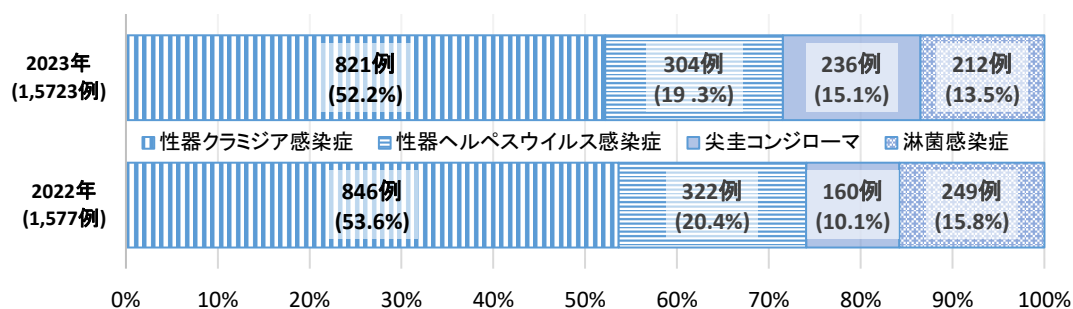


女性のうち「従事歴あり」は増加傾向

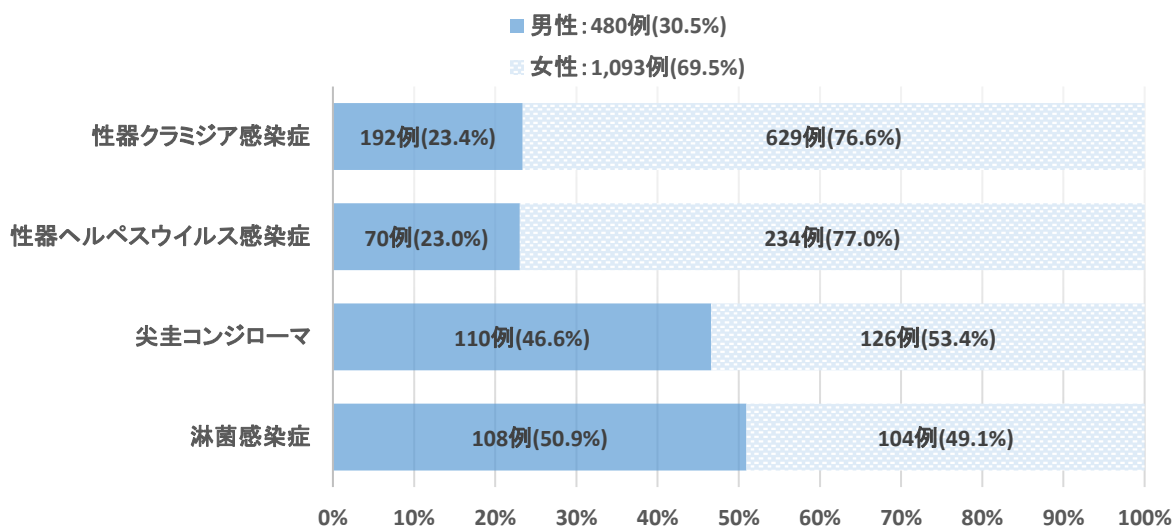
2019年より妊娠、HIV感染症合併、梅毒感染の既往、性風俗産業従事歴・利用歴、口腔咽頭病変の有無が追加

性感染症定点報告の発生動向(大阪市)

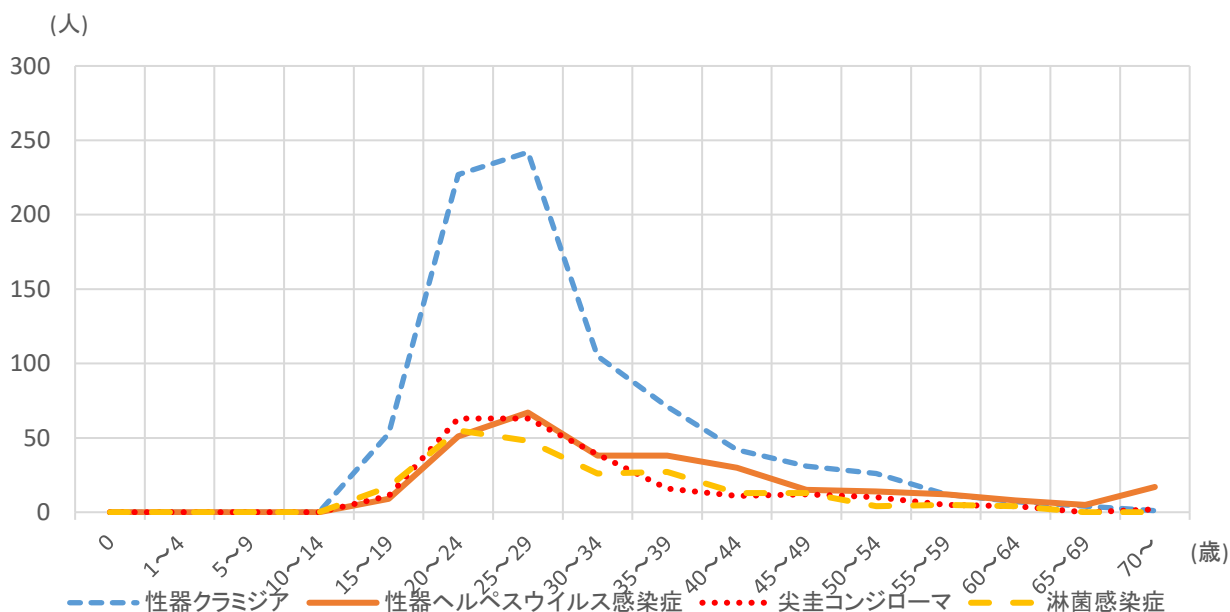
疾患別割合(男女計)



疾患別・男女別件数比較 2023年



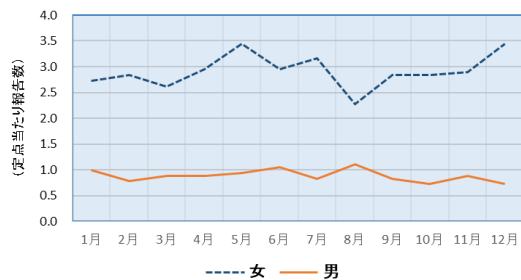
疾患別・年齢別患者報告数(男女計) 2023年



性感染症定点報告の発生動向(大阪市)

1) 性器クラミジア感染症

月別定点当たり報告数(2023年)



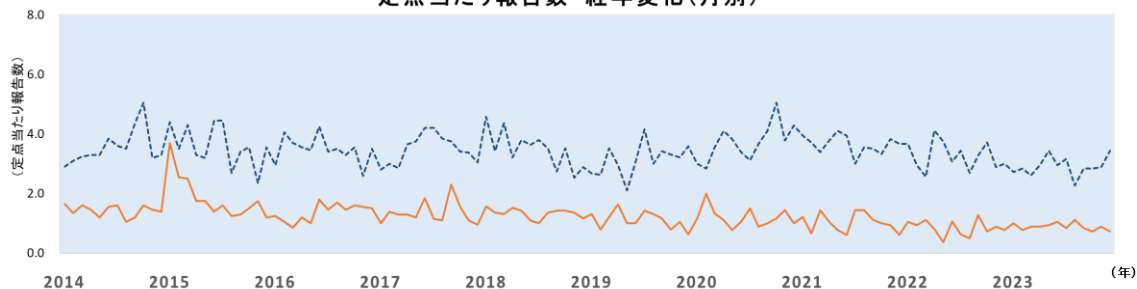
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	2.72	2.83	2.61	2.94	3.44	2.94
男性	1.00	0.78	0.89	0.89	0.94	1.06

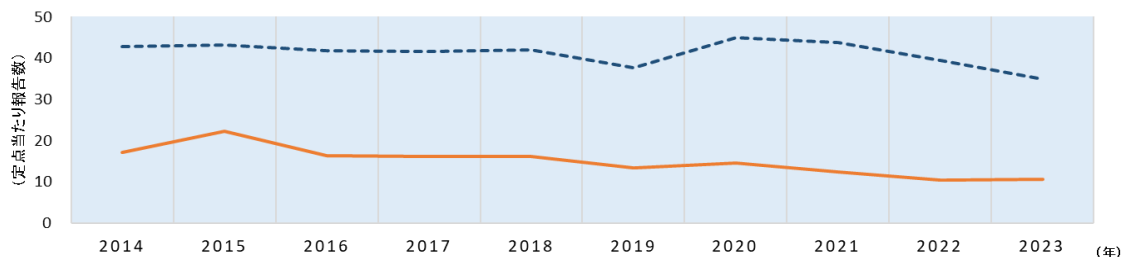
月	7	8	9	10	11	12
女性	3.17	2.28	2.83	2.83	2.89	3.44
男性	0.83	1.11	0.83	0.72	0.89	0.72

年平均	計	10年間の定点あたり数の平均
2.91	34.94	41.19
0.89	10.67	14.91

定点当たり報告数 経年変化(月別)

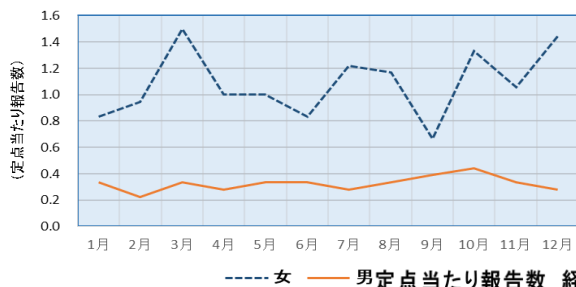


定点当たり報告数 経年変化(年別)



2) 性器ヘルペスウイルス感染症

月別定点当たり報告数(2023年)



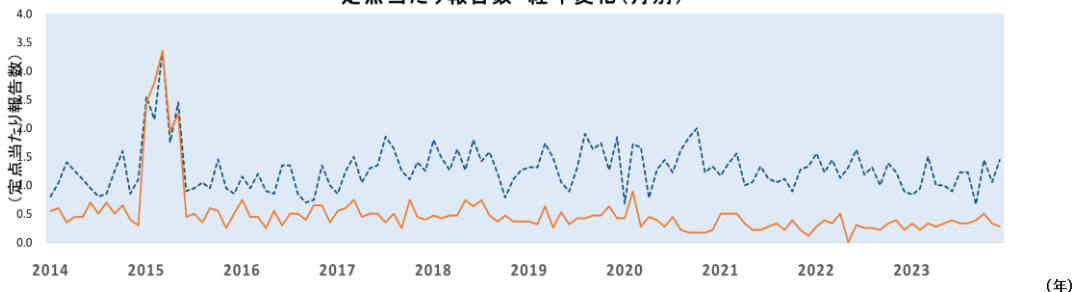
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.83	0.94	1.50	1.00	1.00	0.83
男性	0.33	0.22	0.33	0.28	0.33	0.33

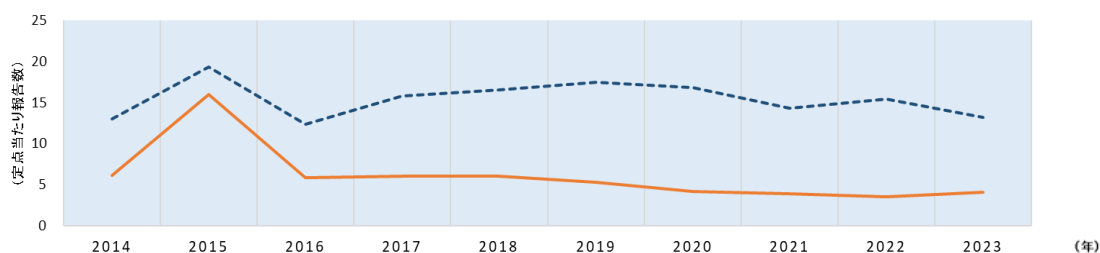
月	7	8	9	10	11	12
女性	1.22	1.17	0.67	1.33	1.06	1.44
男性	0.28	0.33	0.39	0.44	0.33	0.28

年平均	計	10年間の定点あたり数の平均
1.08	13.00	15.43
0.32	3.89	6.08

定点当たり報告数 経年変化(月別)



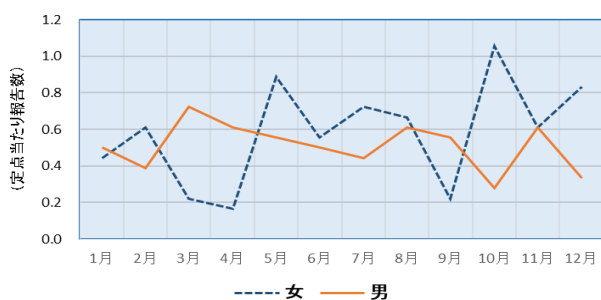
定点当たり報告数 経年変化(年別)



性感染症定点報告の発生動向(大阪市)

3) 尖圭コンジローマ

月別定点当たり報告数(2022年)



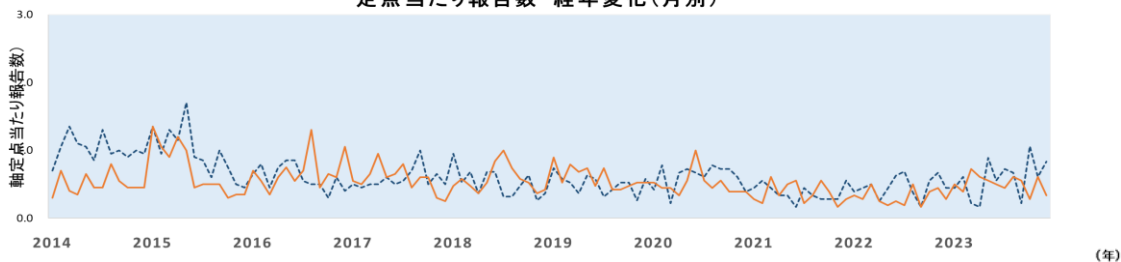
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.44	0.61	0.22	0.17	0.89	0.56
男性	0.50	0.39	0.72	0.61	0.56	0.50

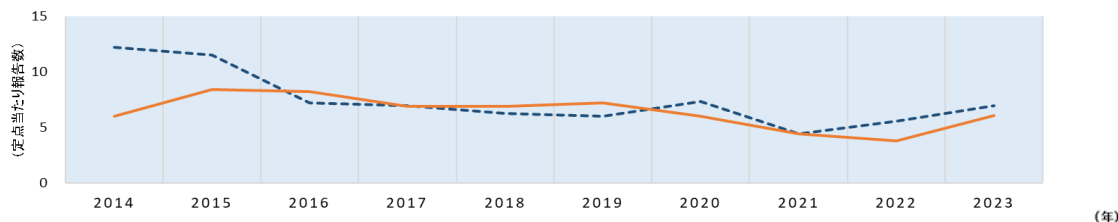
月	7	8	9	10	11	12
女性	0.72	0.67	0.22	1.06	0.61	0.83
男性	0.44	0.61	0.56	0.28	0.61	0.33

年平均	計	10年間の定点あたり数の平均
0.58	7.00	7.45
0.51	6.11	6.41

定点当たり報告数 経年変化(月別)

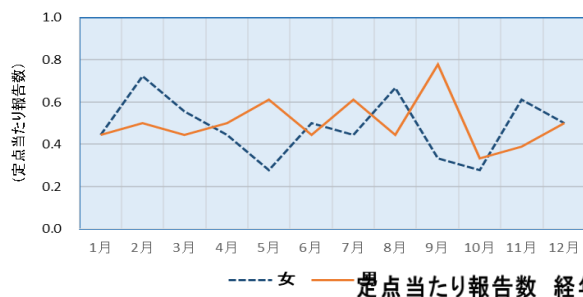


定点当たり報告数 経年変化(年別)



4) 淋菌感染症

月別定点当たり報告数(2022年)



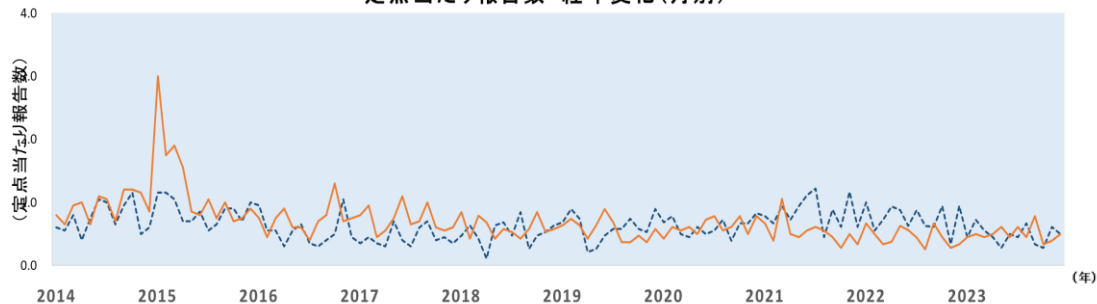
月別定点あたり報告数

月	1	2	3	4	5	6
女性	0.44	0.72	0.56	0.44	0.28	0.50
男性	0.44	0.50	0.44	0.50	0.61	0.44

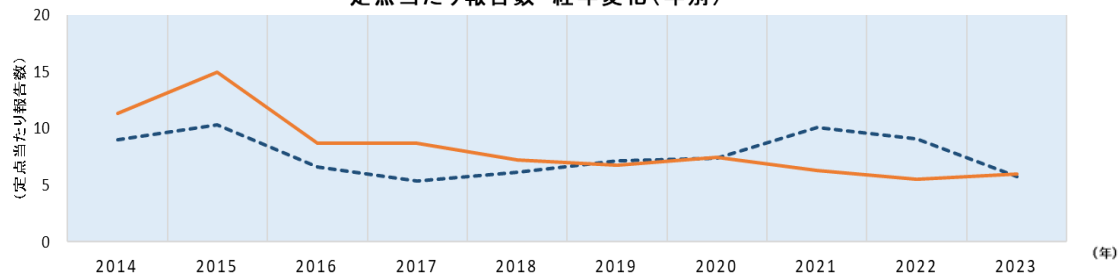
月	7	8	9	10	11	12
女性	0.44	0.67	0.33	0.28	0.61	0.50
男性	0.61	0.44	0.78	0.33	0.39	0.50

年平均	計	10年間の定点あたり数の平均
0.48	5.78	7.70
0.50	7.44	8.30

定点当たり報告数 経年変化(月別)



定点当たり報告数 経年変化(年別)



第4次大阪市エイズ対策基本指針

実績及び評価

目 次

第4次大阪市エイズ対策基本指針実績及び評価

◇第4次大阪市エイズ対策基本指針 年次（度）別目標値・実績値一覧表	22 頁
◇大目標・副次目標	24 頁
◇基本施策1 正しい知識の普及啓発	28 頁
◇基本施策2 HIV検査・相談体制の充実	37 頁
◇基本施策3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・福祉の連携強化	42 頁
◇基本施策4 施策の実施状況とその効果の分析・評価	45 頁

【参考資料】

検査を受ける人を対象としたアンケート結果(令和5年度)	参考資料-1 頁
令和5年 後天性免疫不全症候群 発生届出医療機関別割合	参考資料-12 頁

第4次大阪市エイズ対策基本指針 年次(度)別目標値・目標割合について

		令和2年(度) 実績値・ 実績割合	年 次 (度) 別 目 標 値 ・ 目 標 割 合				
			令和4年(度)	令和5年(度)	令和6年(度)	令和7年(度)	令和8年(度) (最終目標)
大目標							
新規エイズ患者報告数 ※1		19人	19人	19人	18人	17人	16人以下
副次目標							
HIV検査受検者数		8,540人	9,232人	9,924人	10,616人	11,308人	12,000人以上
MSMのHIV検査受検者数		2,377人	2,615人	2,852人	3,090人	3,328人	3,500人以上
新規報告数(HIV感染者＋エイズ患者)に占めるエイズ患者の割合 ※1		21.6% ※2	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
1 正しい知識の普及啓発							
大阪市ホームページ(HIV等検査のページ)の閲覧数		84,155回	88,363回	92,571回	96,778回	100,986回	105,000回以上
MSMの過去6か月間のコンドーム常用割合		30.1%	31%	32%	33%	34%	35%以上
MSM受検者で過去に検査を受けたことのある者のうち過去1年の間に受けている者の割合		61.1%	62%以上	64%以上	66%以上	68%以上	70%以上
性風俗産業の従事者受検者で過去に検査を受けたことのある者のうち過去6か月の間に受けている者の割合		61.6%	62%以上	64%以上	66%以上	68%以上	70%以上
全市立中学校のうち、HIV研修を受講した教職員が在籍する学校の割合		38.6% ※3	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上
HIV研修受講後、受講内容を生徒の教育に活かすと答えた教職員の割合		95.8% ※3	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
2 HIV検査・相談体制の充実							
HIV検査受検者数		8,540人	9,232人	9,924人	10,616人	11,308人	12,000人以上
MSMのHIV検査受検者数		2,377人	2,615人	2,852人	3,090人	3,328人	3,500人以上
3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・福祉の連携強化							
研修受講後、HIV陽性者の受け入れを肯定した福祉関係者数		55.6% ※3	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上

注) ※1の実績値及び目標値は、年度(4月～翌3月)ではなく年次(1月～12月)である。

注) ※2の実績割合は、平成29年から令和2年までの平均実績割合である。

注) ※3の実績割合は、平成29年度から令和2年度までの平均実績割合である。

第4次大阪市エイズ対策基本指針 年次(度)別実績値・実績割合について

			令和2年(度) 実績値・ 実績割合	令和5年(度) 目標値・ 目標割合	年 次 (度) 別 実 績 値 ・ 実 績 割 合				
					令和4年(度)	令和5年(度)	令和6年(度)	令和7年(度)	令和8年(度) (最終評価年)
大目標									
新規エイズ患者報告数 ※1			19人	19人	10人	11人	(1月～10月) 14人	-	-
副次目標									
HIV検査受検者数			8,540人	9,924人	13,837人	14,575人	-	-	-
MSMのHIV検査受検者数			2,377人	2,852人	3,292人	3,352人	-	-	-
新規報告数(HIV感染者＋エイズ患者)に ※1 占めるエイズ患者の割合			21.6% ※2	20%以下	13.7%	17.5%	(1月～10月) 23.7%	-	-
1 正しい知識の普及啓発									
大阪市ホームページ(HIV等検査のページ) の閲覧数			84,155回	92,571回	137,745回	129,756回	-	-	-
MSMの過去6か月間のコンドーム常用割合			30.1%	32%	26.9%	26.1%	-	-	-
MSM受検者で過去に検査を受けたことのある 者のうち過去1年の間に受けている者の割合			61.1%	64%以上	59.1%	67.3%	-	-	-
性風俗産業の従事者受検者で過去に検査を 受けたことのある者のうち過去6か月の間に受 けている者の割合			61.6%	64%以上	61.3%	61.1%	-	-	-
全市立中学校のうち、HIV研修を受講した 教職員が在籍する学校の割合			38.6% ※3	70%以上	87.4%	91.7%	-	-	-
HIV研修受講後、受講内容を生徒の教育 に活かすと答えた教職員の割合			95.8% ※3	90%以上	91.5%	98.1%	-	-	-
2 HIV検査・相談体制の充実									
HIV検査受検者数			8,540人	9,924人	13,837人	14,575人	-	-	-
MSMのHIV検査受検者数			2,377人	2,852人	3,292人	3,352人	-	-	-
3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・ 福祉の連携強化									
研修受講後、HIV陽性者の受け入れを肯定 した福祉関係者数			55.6% ※3	70%以上	78.1%	73.2%	-	-	-

注) ※1の実績値及び目標値は、年度(4月～翌3月)ではなく年次(1月～12月)である。

注) ※2の実績割合は、平成29年から令和2年までの平均実績割合である。

注) ※3の実績割合は、平成29年度から令和2年度までの平均実績割合である。

令和5年度（次）の実績及び取り組み状況評価

1 大目標・副次目標

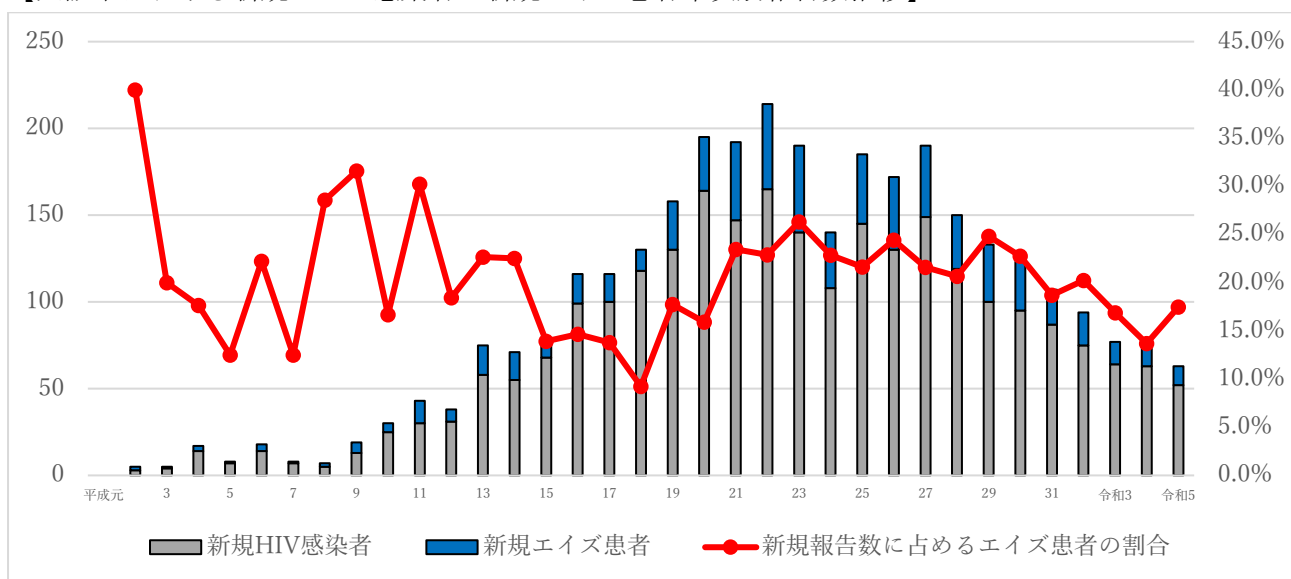
大目標

今後5年間でエイズ患者報告数を15%減少させる

令和2年：19人 → 令和8年目標値：16人以下（15%減少：16.15人）

(基準年) 令和2年 実績値	(参考) 令和3年 実績値	年次別実績値				
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年 (最終評価年)
19人	13人	<u>10人</u>	<u>11人</u>	—	—	—
年次別目標値		19人	19人	18人	17人	16人以下

【大阪市における新規HIV感染者・新規エイズ患者年次別報告数推移】



新規HIV感染者エイズ患者報告数

	年	平成23	24	25	26	27	28	29	30	31(令和元)	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6 (1月～10月 1～41週)
大阪市	新規エイズ患者（人）	50	32	40	42	41	31	33	28	20	19	13	10	11	14
	新規HIV感染者（人）	140	108	145	130	149	119	100	95	87	75	64	63	52	45
	エイズ患者割合（％）	26.3	22.9	21.6	24.4	21.6	20.7	24.8	22.8	18.7	20.2	16.9	13.7	17.5	23.7

- 令和5年の新規エイズ患者報告数は、年次別目標値を達成している。最終評価年の目標値の達成にも至っている。
- 平成29年以降、新規HIV感染者報告数及び新規エイズ患者報告数は、ともに減少傾向にある。

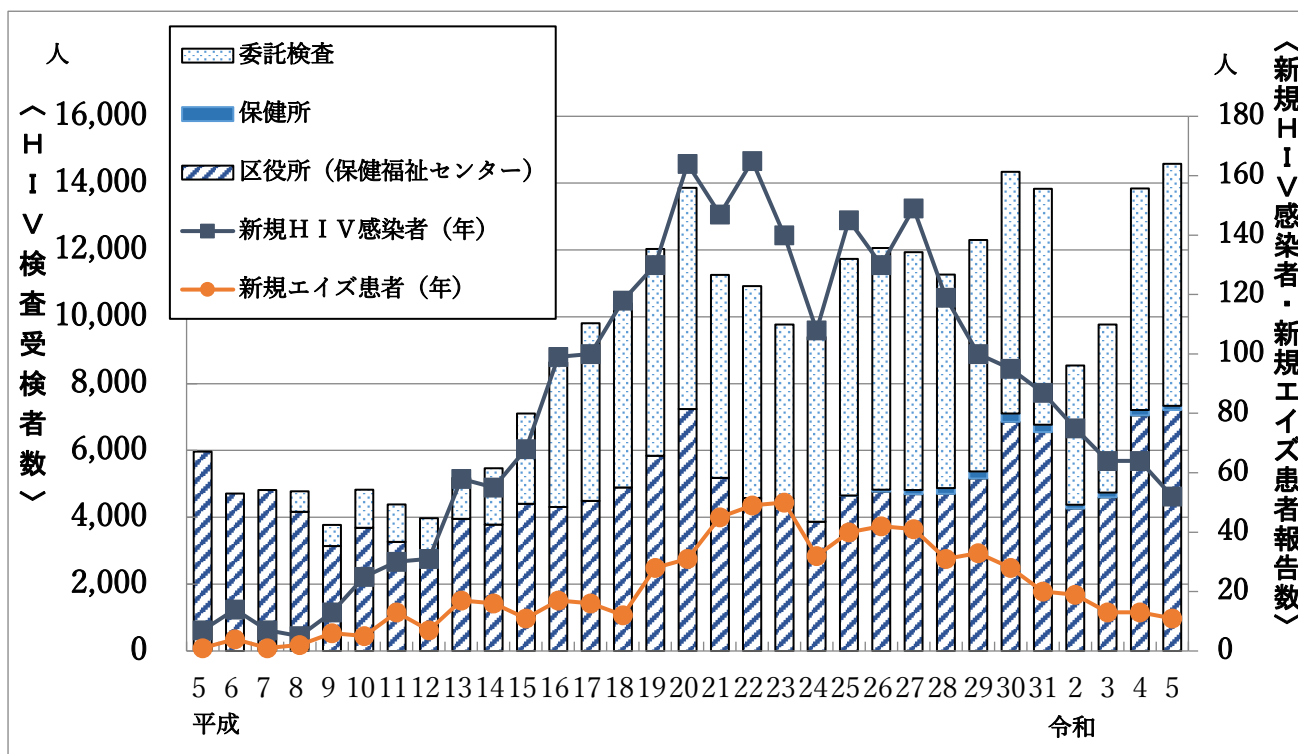
副次目標（１）

年間のH I V検査受検者数を今後５年間で12,000人以上にする

令和２年度：8,540人 → 令和８年度：12,000人以上

(基準年度) 令和２年度 実績値	(参考) 令和３年度 実績値	年度別実績値				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度 (最終評価年度)
8,540人	9,769人	<u>13,837人</u>	<u>14,575人</u>	—	—	—
年度別目標値		9,232人	9,924人	10,616人	11,308人	12,000人以上

【大阪市におけるH I V検査受検者数の推移】



- 令和５年度は、昨年度よりさらに受検者数が増加し、年度別目標値をはるかに上回って最終年度目標値を達成した。
- 令和２・３年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による受検者数の減少がみられていたが、令和４・５年度は、梅毒患者報告数の増加の影響を受け受検者が増加したと思われ、新型コロナウイルスが流行する前の平成３１年度（13,833人）の水準に戻っている。

副次目標（２）

年間のMSMのH I V検査受検者数を今後５年間で50%増加させる

令和２年度：2,377人（推計値） → 令和８年度：3,500人以上（推計値）

(基準年度) 令和２年度 実績値[推計]	(参考) 令和３年度 実績値[推計]	年度別実績値[推計] カッコ内は全受検者に占めるMSM受検者の割合				
		令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度 (最終評価年度)
2,377人 (27.8%)	2,616人 (26.8%)	<u>3,292人</u> (23.8%)	<u>3,352人</u> (23.0%)	—	—	—
年度別目標値[推計]		2,615人	2,852人	3,090人	3,328人	3,500人以上

※MSM：Men Who Have Sex with Men（男性間で性的接触を行う者）

- 令和５年度は、年度別目標値を達成した。
- MSM受検者の全体に占める割合 [推計]、令和４年度に比較すると横ばいであるも受検者数は増加がみられる。
コロナ前の平成31年度は、23.6%（3,258人）であった。

＜MSMのH I V検査受検者数 推計人数の算出方法＞

次の①と②の和により推計人数を算出する。

① ３区保健福祉センター、委託検査場のMSM受検者数

「検査を受ける人を対象としたアンケート」の結果からMSM受検割合を算出し、H I V検査受検者数に乗じて算定

②MSM向けH I V検査における受検者数

＜参考＞ 令和５年度のMSMのH I V検査受検者数（推計値）の算定例

（３区保健福祉センター・委託検査場のH I V検査受検者数 14,444人）×（３区保健福祉センター・委託検査場のアンケートの結果から算出したMSMの割合 22.3%）＋MSM向けH I V検査受検者数 131人
 $\Rightarrow 14,444 \times 0.2230 + 131 = \underline{3,352}$

副次目標（３）

新規報告数（H I V感染者＋エイズ患者）に占めるエイズ患者の割合を毎年 20％以下にする
平成 29 年～令和 2 年平均：21.6％ → 毎年 20％以下

(基準年) 平成 29 年 ～令和 2 年 実績割合 (平均)	(参考) 令和 3 年 実績割合	年次別実績割合				
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年 (最終評価年)
21.6％	16.9％	<u>13.7％</u>	<u>17.5％</u>	—	—	—
年次別目標割合		20％以下	20％以下	20％以下	20％以下	20％以下

- 令和 5 年は、年次別実績割合を達成した。

考察 ～大目標・副次目標の達成状況から～

- 大目標である、エイズ患者報告数及び副次目標（３）の新規報告数に占めるエイズ患者の割合ともに目標を達成しているが、昨年実績よりエイズ患者数及び新規報告数に占めるエイズ患者割合に増加が見られる。コロナ禍にH I V検査受検者数が減少後、令和 4・5 年度は増加しコロナ禍前の水準に戻っているが、潜在的なH I V感染者が発見できていないことが考えられ、エイズで発見される患者の増加が懸念されるため、今後も動向を注視すべきである。
- 梅毒患者の増加に伴い、H I V感染者の増加も懸念されるため、梅毒の動向を見据え、今後も梅毒対策も含めたH I V対策を引き続き実施していく必要がある。

2 基本施策と具体的な取り組み

基本施策1 正しい知識の普及啓発

【事業目標】

1. 市民に対し、H I V感染症・エイズ・性感染症の正しい知識や検査・相談体制・医療体制等についての情報を広く周知する。
2. H I V感染症・エイズに対する正しい知識の普及啓発により、差別や偏見をなくすとともに、個人の感染予防行動がとりやすくなるような地域・学校・職場等の環境を醸成する。

1. 広域的な普及啓発

(1) 本市ホームページ・SNS・啓発媒体の充実

《数値目標》大阪市ホームページ（H I V等検査のページ）の閲覧数を今後5年間で25%増加させる

《評価方法》ホームページ解析による1年間の閲覧数の実績により把握

(基準年度) 令和2年度 実績値	(参考) 令和3年度 実績値	年度別実績値				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
84,155 回	105,790 回	<u>137,745 回</u>	<u>129,756 回</u>	—	—	—
年度別目標値		88,363 回	92,571 回	96,778 回	100,986 回	105,000 回 以上

- 令和5年度は、昨年度に引き続き年度別目標値をはるかに上回り、最終年度目標値を達成した。

○本市ホームページ「H I V/エイズ・性感染症ガイド」

<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000549405.html>



- ・令和4年3月よりH I V・性感染症に関する情報の集約を行う専用ページを作成し、スマートフォンからも検索・閲覧しやすいページに全面改修した。H I V・その他性感染症の情報や検査情報、外国人向けページ、関係機関サイトへのリンクなど多様なニーズに対応できるよう情報の充実化を図った。
- ・検査を受ける人を対象としたアンケート【参考資料P1～11】では、検査の情報を本市ホームページで得たと答えた割合は、37.5%と最も多い。

○X(旧Twitter)「大阪市保健所H I V・性感染症情報ナビ」https://x.com/osakacity_hiv

- ・平成30年11月から、H I V・性感染症に関するタイムリーな情報発信のため、X(旧Twitter)アカウントを開設している。



	令和元年 9月11日時点	令和2年 9月8日時点	令和3年 7月1日時点	令和4年 10月27日時点	令和5年 5月18日時点	令和6年 5月13日時点
フォロワー	163 人	362 人	495 人	578 人	606 人	596 人

令和5年度 投稿実績	合計	(再掲) 投稿内容内訳		
		H I V	梅 毒	検査情報
投稿回数 (全投稿に占める割合)	42	22 (52%)	6 (14%)	14 (33%)
インプレッション※ ¹ 数 (平均)	51,005 (1215.6)	27,005 (1227.5)	10,950 (1825.0)	13,100 (935.0)
エンゲージメント※ ² 数 (平均)	945 (22.5)	488 (22.2)	231 (38.5)	226 (16.1)
エンゲージメント率(%) ※ ³	5.6	1.8	2.1	1.7

※1 インプレッション：当ポストがユーザーのタイムライン上に表示された回数

※2 エンゲージメント：ユーザーが当ポストに反応（詳細表示・リポスト等）した回数

※3 エンゲージメント率：閲覧者のうち反応した割合（エンゲージメント数÷インプレッション数）

- ・1 投稿に対するエンゲージメント数（詳細表示するなどの反応が多かった数）が高かった投稿内容は「梅毒」、エンゲージメント率（閲覧数に対する反応の割合）が高かった投稿内容は「梅毒」だった。

○Instagram「osakacity_hiv_sti（Instagram）大阪市保健所感染症対策課（H I V・性感染症専用）」

https://www.instagram.com/osakacity_hiv_sti/

- ・令和5年3月から、画像や動画を中心とした情報発信のため、Instagram アカウントを開設している。令和6年5月14日時点で、17回投稿している。
- ・インプレッション※¹合計が1,759回、リーチ※²合計が1,523回、エンゲージメント※³合計22回だった。



※1 インプレッション：投稿が表示された回数

※2 リーチ：投稿を閲覧したアカウント数

※3 エンゲージメント：投稿に対し「いいね」「コメント」などアクションを起こしたアカウント数

【課題及び今後の方向性】

- ・本市ホームページの閲覧数は令和5年度も年度別目標を達成しているが、昨年度と比較すると5.8%減少している。検査を受ける人を対象としたアンケートにおいても、検査の情報を本市ホームページで得たと答えた割合は、37.5%と最も多いものの令和4年度（44.1%）より6.6%減少している。今後も閲覧数が増加するように、引き続き情報発信していく必要がある。
- ・無関心層への情報発信については課題がある。X（旧 Twitter）、Instagram と連携して情報発信するとともに、関心の高い記事に関連付けるなどにより、SNSの閲覧が増える発信方法の工夫を引き続き行い、本市ホームページの閲覧につなげる努力が必要である。
- ・リーフレット・ポスターなどの啓発媒体により、自分事として認識して検査受検等の行動につながるよう、特に若年者のニーズや現状を把握し、作成や啓発方法を工夫する必要がある。

(2) U＝Uの認知状況の把握及び周知

○U＝Uの認知状況

年度		検査受検者	
		全体	MSM
令和4年度 (令和4年10月～ 令和5年3月)	よく知っている	16.7%	28.2%
	聞いたことがあるが中身をよく知らない	24.5%	33.1%
	全く知らない	56.7%	37.7%
令和5年度	よく知っている	20.7%	36.2%
	聞いたことがあるが中身をよく知らない	27.2%	34.7%
	知らない	50.9%	28.6%

年度		教職員 研修受講者	福祉関係者 研修受講者
令和4年度	以前から知っていた	20.7%	19.8%
	前回の本研修ではじめて聞いた	26.6%	—
	はじめて聞いた	52.6%	79.2%
令和5年度	以前から知っていた	31.4%	20.6%
	前回の本研修ではじめて聞いた	27.3%	—
	はじめて聞いた	41.3%	79.4%

- ・検査場での受検者アンケートでは、令和4年10月より、「U＝U (Undetectable＝Untransmittable: 検出限界値未満であれば感染しない) について、知っていますか。」という設問を新たに設けた。令和5年度のアンケート集計結果より、「よく知っている」**20.7%**と、令和4年度より4.0%増加、「聞いたことがあるが中身をよく知らない」は27.2%と2.7%増加、「全く知らない」50.9%は5.8%減少した。MSMの回答では、「よく知っている」**36.2%**と令和4年度より8.0%増加、「聞いたことがあるが中身をよく知らない」34.7%は1.6%増加している。今後も引き続き、正しく理解してもらえるよう周知が必要である。
- ・教職員向け研修では、令和3年度よりU＝Uの内容を研修内で情報提供しており、令和5年度の研修受講後アンケートで、研修前に知っていた割合は**31.4%**。令和3・4年度の研修で知った割合が27.3%、知らなかった割合は41.3%であった。
- ・令和5年度の福祉関係者向け研修後のアンケートでは、研修前に知っていた割合は**20.6%**と令和4年度の19.8%より0.8%増加、研修ではじめて知った割合は、79.4%であった。



○U＝Uの周知

- ・U＝Uに関する説明文を令和4年3月より、本市ホームページ上に掲載している。うちやん びっぴい
- ・大阪府・大阪府内保健所設置市で作成している啓発冊子「おおさかエイズ情報NOW」に掲載している。

- ・教職員向け研修や福祉関係者向け健康教育、本市職員への内部研修などでU＝Uについて情報提供している。

【課題及び今後の方向性】

- ・U＝Uの認知度は、検査受検者全体でみると約 20%であり増加傾向であるが、「聞いたことがあるが中身をよく知らない」と答えた割合が上回っている。さらに認知度が向上するように啓発を進める。
- ・MSMのU＝Uに対する認知度は全体と比較的に高く、「聞いたことがあるが中身をよく知らない」と答えた割合より上回っている。引き続き、U＝Uの本来の意味やコンドームの使用の必要性についてなど、正しい理解につながるよう周知が必要である。

(3) 地域・学校・職場への普及啓発

- ・「大阪市出前講座」に登録し、依頼があれば健康教育を実施している。
- ・区保健福祉センターでは、学校での健康教育の実施の他、検査普及週間及び世界エイズデーに際し、区役所内での啓発ブースの設置や、管内にある教育機関へ啓発媒体の配布、広報誌への掲載、SNSでの発信等を行った。

【課題及び今後の方向性】

- ・職場等で、感染者に対し、適切に対応できるよう普及啓発が必要である。引き続き、SNSや広報、出前講座等で正しい知識の普及啓発を行う。
- ・HIV／エイズについて正しく理解し、差別や偏見がなくなるような地域・学校・職場等の環境を醸成するよう、引き続き検査普及週間や世界エイズデーに関連した啓発を行う。

(4) 大阪府及び大阪府内保健所設置市との連携

○エイズ予防週間実行委員会（大阪府・大阪府内保健所設置市）による啓発

- ・公益財団法人エイズ予防財団主唱「大阪エイズウィークス 2023」に参加し、賛同した団体・企業と協働して、企画の実施や広く市民に対する広報を展開した。
- ・啓発・教育用資材（パネル）の作製、啓発用ポケットティッシュ・カバー付き付箋・エコバックの作製を行い、「Instagram」広告にて啓発動画配信をした。
- ・大阪エイズ啓発フェスティバルや、FM802 開催イベント「FUNKY MARKET」、セレッソ大阪の試合において啓発物品の配布を行った。

○大阪府・大阪府内保健所設置市と協働で冊子を作成

- ・エイズ普及啓発冊子「おおさかエイズ情報NOW」を作製し（令和5年度本市分：4500冊）、検査会場、健康教育等で活用。
- ・陽性者支援向け冊子「たんぽぽ」を2年に1回作製（令和4年度本市分：350冊）し、検査会場等で活用している。
- ・上記冊子の内容をホームページにてデジタルブック化して掲載している。

【課題及び今後の方向性】

- ・他自治体と啓発等の取り組みについて、情報交換・連携を行っていく。

2. ターゲット層への普及啓発

(1) 個別施策層

ア MSM対象

《数値目標》MSMの過去6か月間のコンドーム常用割合を今後5年間で5%増加させる

《評価方法》大阪市が実施したHIV検査会場での受検者アンケートにより把握

(基準年度) 令和2年度 実績割合	(参考) 令和3年度 実績割合	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
30.1%	25.1%	26.9%	26.0%	—	—	—
年度別目標割合		31%	32%	33%	34%	35%以上

➤ 令和5年度は、年度別目標割合を達成しなかった。

《数値目標》MSM受検者で過去に検査を受けたことのある者のうち過去1年の間に受けている

者の割合を今後5年間で70%以上にする

《評価方法》大阪市が実施したHIV検査会場での受検者アンケートにより把握

(基準年度) 令和2年度 実績割合	(参考) 令和3年度 実績割合	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
61.1%	59.6%	59.1%	67.3%	—	—	—
年度別目標割合		62%以上	64%以上	66%以上	68%以上	70%以上

➤ 令和5年度は、年度別目標割合を達成した。

○MSMに対する普及啓発の主な取り組み

MASH大阪（大阪地区のMSMに対しHIV・性感染症の感染を予防するために働きかけ、MSMにおけるセクシャルヘルスの増進を目的に活動をしている団体）と協働し、NGO等の経験やノウハウを活かした効果的な啓発活動を行っている。

- ・MSMの中高年向け季刊誌「南界堂通信」をMASH大阪に委託し、検査の周知や正しい知識の普及を目的に、年2回（夏・冬）を発行している。
- ・MSM向けHIV検査「distaでピタッとちえっくん」および北区夜間検査のフライヤー作成と関連商業施設（ゲイバー、ハッテン場、その他関連店など）等への配布をMASH大阪へ依頼し、コミュニティのノウハウを活かした検査受検啓発をおこなっている。
- ・若年層への普及啓発として、MSM向けアプリにポップアップ広告を掲載している。
- ・MSM向けHIV検査では、HIVや梅毒の症状、感染経路、適切なコンドームの使用方法、定期的な検査受検、曝露前予防投薬（PrEP）・U=Uに関する正しい知識等に関して相談対応及び予防啓発を行っている。

【課題及び今後の方向性】

- ・MSM対象のコンドームの常用率は令和4年度と比較し横ばい傾向、定期的な検査受検率は増加がみられた。引き続き、検査結果説明時にセーフターセックスや定期的な検査受検等についての予防啓発を行う。
- ・関係団体と引き続き連携し、コンドームの常用や年1回以上の定期受診の必要性を強調した啓発媒体の配布や検査場の周知・実施等を行う。

イ 性風俗産業の従事者対象

《数値目標》性風俗産業の従事者受検者で過去に検査を受けたことのある者のうち過去6か月の間に受けている者の割合を今後5年間で70%以上にする

《評価方法》大阪市が実施したHIV検査会場での受検者アンケートにより把握

(基準年度) 令和2年度 実績割合	(参考) 令和3年度 実績割合	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
61.6%	65.4%	61.3%	61.1%	—	—	—
年度別目標割合		62%以上	64%以上	66%以上	68%以上	70%以上

- 令和5年度は、年度別目標割合を達成していない。

○性風俗産業の従事者に対する普及啓発の主な取り組み

性風俗などで働くセックスワーカーの健康と安全のために活動する団体（SWASH）と連携し、性風俗産業従事者の現状把握やノウハウを生かした効果的な啓発に取り組んでいる。

- ・梅毒に関する記事を協働で作成しSWASHが運営する情報サイトに掲載している。
- ・ホームページのリンクやX（旧 Twitter）フォローやリポストをして、性風俗産業従事者へ情報が届きやすいよう工夫している。

【課題及び今後の方向性】

- ・性風俗産業の従事者の定期的な検査受検率は横ばい傾向であり、引き続き、検査結果説明時にセーフターセックスや定期的な検査受検等についての予防啓発を行うとともに、より効果的な啓発方法を性風俗産業従事者の支援団体等と連携し検討する。
- ・本市における梅毒発生動向では、女性の6割以上が性風俗産業従事ありと報告があり、梅毒等の性感染症予防啓発も合わせて行う必要がある。
- ・性風俗産業従事者の支援団体等との連携により、性風俗従事者の現状把握を行い、より効果的な普及啓発を行う。

ウ 薬物使用者対象

令和5年度は、各区更生保護司会の保護司が集まる研修でHIVの情報提供を行った。また、厚生労働省科学研究（エイズ対策政策研究事業）が作成したHIV・HBV・HCVの情報と相談先をまとめたリーフレット「知っていただきたい感染症があります。」をこころの健康センターに設置した。

【課題及び今後の方向性】

- ・啓発媒体の作成や出前講座等について検討が必要であり、薬物依存症者への支援を行っている団体や関係機関等と引き続き情報収集等を行っていく。

(2) 青少年対象

ア 学校現場での教育の促進

○HIV感染症・エイズに関する健康教育〔実施人数(実施回数)〕

対象	(参考) 平成30年度	(参考) 令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学生(一部教職員・保護者を含む)	77(1)	50(1)	0(0)	0(0)
中学生(一部教職員・保護者を含む)	3,144(21)	635(5)	759(7)	410(3)
高校生(一部教職員を含む)	481(2)	262(2)	140(1)	757(3)
大学生	577(4)	739(4)	1,248(4)	1386(4)
専門学校生	164(4)	64(1)	99(3)	106(3)
教職員	306(1)	512(1)	462(1)	655(1)
合計	4,749(33)	2,262(14)	2,708(16)	3,314(14)

- ・小中高生や専門学校生等への健康教育は学校からの要請を受けて区保健福祉センターが中心に行っており、保健所は講演資料の提供・技術的支援を行っている。
- ・各区保健福祉センターにおいて、専門学校等へ啓発資料の配布を行っている。

○教職員向け研修「学校におけるHIV・性感染症講習会」

教育委員会事務局と連携し、市立小・中学校の教職員に対しHIV感染症・エイズ・性感染症に関する研修を実施した。

《数値目標》全市立中学校のうち、HIV研修を受講した教職員が在籍する学校の割合を毎年70%以上にする

《評価方法》教職員向けのHIV研修実績により把握

(基準年度) 平成29年度 ～令和2年度 実績割合(平均)	(参考) 令和3年度	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
38.6%	80.0% (104/130校)	87.4% (111/127校)	91.7% (122/133校)	—	—	—
年度別目標割合		70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上

- 令和5年度は、年度別目標割合を達成した。

《数値目標》H I V研修受講後、受講内容を生徒の教育に活かすと答えた教職員の割合を毎年90%以上にする

《評価方法》教職員向けのH I V研修後のアンケートにより把握

(基準年度) 平成29年度 ～令和2年度 実績割合(平均)	(参考) 令和3年度	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
95.8%	88.2%	<u>91.5%</u>	<u>98.1%</u>	—	—	—
年度別目標割合		90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上

➤ 令和5年度は、年度別目標割合を達成した。

- ・令和5年度は、令和4年度と同様、夏休みを含む時期に各学校で受講できるようオンデマンド研修を実施した。教育委員会事務局より各校1名以上の受講を呼びかけたため、9割以上の小・中学校が受講した。(小学校 496名・中学校 159名・合計655名)
- ・受講者の内訳は、管理職10.4%、養護教諭48.2%、保健主事9.2%、教諭32.1%であった。
- ・研修の内容は、大阪市保健所より「H I V/エイズ・性感染症について」の講義に加え、外部講師として宮田りりい氏(関西大学 非常勤講師)に「H I V/A I D Sと性の多様性」をテーマにご講義いただいた。
- ・今後もこのような講習会に参加したいかという質問に対し、参加したいと回答した割合が98.3%であり、内容は適切であったと評価できる。
- ・大阪市教育局が発行した「生きる力を育む『性に関する指導』の手引き」では、この研修を市立小学校・中学校教職員の校内研修として位置づけており、連携して実施している。

○エイズ予防啓発冊子「エイズのはなし」

- ・市立中学校3年生を対象に配付した(令和5年度 20,700冊)。冊子には、本市ホームページの「H I V/エイズ・性感染症ガイド」や「コンドームの使い方」にリンクするようQRコードを掲載するなど、ホームページで正しい情報が得られるよう工夫している。
教職員向け研修のアンケートによると、「授業で活用している」33.3%、「生徒へ配付のみしている」41.2%、令和4年度は「授業で活用している」39.9%、「生徒へ配付のみしている」38.8%であり、授業での活用割合はやや減少している。
- ・中学生向けと青少年以上向けの冊子を作成し、デジタルブックをホームページ上に掲載している。
- ・教職員向けに「エイズのはなし」指導の手引きを作成し、教職員向けのポータルサイトに掲載している。活用状況は、15.7%であった(教職員向け研修会アンケートより)。令和4年度は23.4%であり、昨年度より減少しているため活用を促す工夫が必要である。

【課題及び今後の方向性】

- ・大阪市教育局では、「生きる力を育む『性に関する指導』の手引き」に基づき各学校において性教育を実施することを推進している。その一環として、H I V・性感染症予防教育も発達段階に応じて他教科と連携させた教育が必要である。引き続き、教育委員会事務局と連携し、教職員に対する研修や教育資材の提供を充実させていく必要がある。

イ 青少年に対する正しい知識の普及

- ・本市ホームページ「H I V／エイズ・性感染症ガイド」では、青少年が利用することの多いスマートフォンでの見やすさ・使いやすさを重視し、基本的な知識や検査・相談に関する情報の入手できるよう工夫している。
- ・H I V感染症・エイズ・性感染症に対する理解を深め、誤った認識やイメージを変えられるようなポスター・リーフレット・動画等の啓発媒体を作成し広く啓発している。
- ・令和4年度以降は、梅毒報告数が急増しているため、各区の成人の日記念のつどいでの梅毒啓発ティッシュの配布を、地下鉄掲示板における梅毒啓発ポスター掲示した。令和5年度はセレッソ大阪の試合会場での啓発媒体の配布など、若年者をターゲットに広く啓発を行い、それらの啓発媒体には、本市ホームページに二次元コードでリンクさせて正しい情報を閲覧できるよう工夫した。
- ・令和5年度は、あらたに大阪府内大学2校の学園祭に出向き、啓発物品を配付するとともに計275名の学生を対象に性感染症に関するアンケートを実施した。

【課題及び今後の方向性】

- ・若年層（特に高校卒業後の時期）へ情報発信する機会が少ないため、学校教育の中での普及啓発の機会がある時期から十分に普及啓発を行い、高校卒業後の時期においても継続し正しい知識を持てるように教育委員会事務局との連携の継続や情報発信を行う。
- ・梅毒患者報告が若年者を中心に急増していることから、H I Vと合わせて梅毒等性感染症に関する普及啓発が重要である。
- ・引き続き、本市ホームページにて正しい知識の情報発信を行うとともに、啓発媒体には本市ホームページのQRコードを掲載するなど、閲覧につながるような工夫が必要である。

(3) 外国人対象

- ・多言語版（英語・中国語・韓国語・ベトナム語・フィリピン語）で検査相談情報のリーフレットを作成し、ホームページに掲載するほか、国際交流センターや関係機関へ配架依頼をしている。
- ・令和4年度より、国際交流センターのメールマガジンで、6月のH I V検査普及週間と12月の世界エイズデーに関するメールを多言語で送信し、同じ文面をX（旧Twitter）でも発信した。
- ・国際交流センターにおいて、多言語版リーフレットの設置を依頼している。

<国際交流センターメールマガジン配信日・件数>

	令和4年5月31日	令和4年11月22日	令和5年5月30日	令和5年11月28日
日本語	2,259	2,250	1,675	1,674
英語	689	687	684	682
中国語	349	349	347	350
韓国語	252	259	258	258
合計	3,549	3,545	2,964	2,964

- ・日本語学校の教員向け結核研修にて、H I V・性感染症について検査案内を中心に情報提供を行った。
- ・外国人の理解を深め、安心して相談できる体制を整えるため、相談対応する区保健福祉センター保健師・検査従事看護師への研修を実施した。
- ・検査場で看護師など職員がよく使用する文例の英訳を作成し、検査区へ送付した。

【課題及び今後の方向性】

- ・外国人が理解できる言語で検査や相談、医療が受けられるような体制となっているか、情報発信が十分に出来ているか、十分な検証を行う必要がある。
- ・N G O等関係団体・関係機関と連携し、検査相談体制を整え、効果的な普及啓発を行う。

基本施策2 H I V検査・相談体制の充実

【事業目標】

1. 市民がH I V感染を早期に把握できるよう、利便性にも配慮し、安心して検査・相談が受けられるような検査・相談体制を構築する。
2. 市民や医療機関等に対し、検査・相談体制について、あらゆる機会を通じて広く周知する。

【具体的な取り組み実績】

(1) 常設検査・相談の体制整備

○大阪市における常設検査体制

＜3区保健福祉センター・委託検査場 検査実施スケジュール（令和5年度）＞

検査場所	検査項目	予約	月	火	水	木	金	土	日
北区役所 （保健福祉センター）	通常検査	予約不要	9:30 ～ 11:00	—	14:00 ～ 15:30	—	9:30 ～ 11:00 6/30、9/29 復健検査あり 【先着100名】	—	—
中央区役所 （保健福祉センター）			—	9:30 ～ 11:00	9:30 ～ 11:00	9:30 ～ 11:00	—	—	—
淀川区役所 （保健福祉センター）			14:00 ～ 15:30	9:30 ～ 11:00	—	—	—	—	—
中央区役所 （保健福祉センター）	即日検査		—	—	—	—	14:00 ～ 15:00 【第1金曜日のみ実施】	—	—
チョットキャスト chot CAST （大阪検査相談・啓発・支援センター）	通常検査	要予約	—	18:00 ～ 19:50 【先着50名】	—	—	—	—	—
	即日検査		—	—	—	18:00 ～ 19:30	—	14:00 ～ 15:30	14:00 ～ 15:30 【第1日曜日のみ通訳付】

- ・ 3 区保健福祉センターでは、予約不要、北区夜間検査のみ定員を設けている。
- ・ 委託検査（府市共同事業）は、火曜日は予約不要、木・土・日は要予約（WEB 予約）としている。

＜ 3 区保健福祉センター・委託検査場・コミュニティセンターdista 受検者数及び陽性者数・陽性率＞

		(参考) 平成 30 年度	(参考) 令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
保健福祉 センター (3 区合計)	受検者数	6,845 人	4,594 人	7,044 人	7,209 人
	陽性者数	16 人	15 人	7 人	12 人
	陽性率	0.23%	0.33%	0.10%	0.17%
委託検査場 (chot CAST)	受検者数	7,059 人	5,031 人	6,622 人	7,235 人
	陽性者数	26 人	24 人	33 人	27 人
	陽性率	0.37%	0.48%	0.50%	0.34%
コミュニティ センター dista	受検者数	209 人	144 人	171 人	131 人
	陽性者数	1 人	2 人	1 人	1 人
	陽性率	0.48%	1.39%	0.58%	0.76%
合計	受検者数	14,113 人	9,769 人	13,873 人	14,575 人
	陽性者数	43 人	41 人	41 人	40 人
	陽性率	0.30%	0.42%	0.30%	0.27%

＜ 3 区保健福祉センターにおける検査時間帯別受検者数及び平均（臨時検査は除く）＞

		実施回数	受検者数	1 回あたりの 平均受検者数
(参考) 平成 30 年度	午前	293 回	4,258 人	14.5 人
	午後	93 回	1,998 人	21.5 人
	午後（即日）	11 回	244 人	22.2 人
	夜間	4 回	345 人	86.3 人
(参考) 令和 3 年度	午前	292 回	3,010 人	10.3 人
	午後	94 回	1,279 人	13.6 人
	午後（即日）	12 回	146 人	12.2 人
	夜間	3 回	159 人	53.0 人
令和 4 年度	午前	292 回	4,671 人	16.0 人
	午後	97 回	1,960 人	20.2 人
	午後（即日）	12 回	134 人	11.2 人
	夜間	3 回	279 人	93.0 人
令和 5 年度	午前	292 回	4,828 人	16.5 人
	午後	95 回	2,083 人	21.9 人
	午後（即日）	10 回	86 人	8.6 人
	夜間	2 回	188 人	94 人

- ・ 新規 HIV 感染者・新規エイズ患者報告における届出医療機関のうち、検査場（保健所・保健福祉センター、委託検査場）が占める割合は、令和 5 年 51.9%であった。【参考資料 P12～13】
- ・ 検査場でのアンケート結果：【参考資料 P1～11】

＜3区保健福祉センターでの通訳を必要とする外国人受検者数＞検査申込書より

		北区	中央区	淀川区	計
令和4年度	全受検者	3,789	2,238	1,017	7,044
	通訳を必要とする外国人受検者	38 (1.0%)	23 (1.0%)	20 (2.0%)	81 (1.1%)
令和5年度	全受検者	3,819	2,252	1,138	7,209
	通訳を必要とする外国人受検者	79 (2.1%)	39 (1.7%)	10 (0.9%)	128 (1.8%)

- ・言語内訳は検査申込書より、令和4年度は英語64件、ベトナム語8件、中国語4件、フランス語3件、タガログ語1件、ロシア語1件だった。令和5年度は英語100件、中国語16件、ベトナム語5件、ドイツ語2件、スペイン語2件、フランス語2件、ネパール語1件であった。
- ・3区保健福祉センターでの検査時は、多言語版（英語・中国語・韓国語・ベトナム語・フィリピン語）の配布資料を作成し、活用している。通訳が必要な者への陽性告知は、NPO法人CHARMへ通訳派遣を依頼し実施している。

＜委託検査場での外国籍受検者数＞

	(参考) 平成31年度	(参考) 令和3年度	令和4年度	令和5年度
外国籍受検者数 (全受検者に占める割合)	356人 (6.9%)	442人 (8.8%)	519人 (7.8%)	614人 (8.5%)
陽性者数	5人	2人	8人	7人
陽性率 (外国籍陽性者／外国籍全受検者)	1.4%	0.5%	1.5%	1.1%

- ・国籍内訳の主な国は、中国168件、ベトナム92件、韓国49件、フィリピン41件、アメリカ41件、台湾31件、フランス18件、その他173件だった。
- ・委託検査場ホームページの予約ページでは、日本語と英語の予約フォームを作成し、英語での説明文を掲載している。
- ・外国語による電話相談事業（NPO法人CHARMに委託）を利用して chot CAST へ予約することも可能としている。
- ・令和5年度より、月1回通訳付き検査を実施している。

＜MSM向けHIV検査の実施状況＞

	実施日時	実施回数	受検者数	陽性者数 (陽性率)	1回あたりの 平均受検者数
(参考) 平成30年度	奇数月に1回(金～日) 17時～20時	6回	209人	1人 (0.48%)	34.8人
(参考) 令和3年度	奇数月に1回(日) 15時～18時	6回	144人	2人 (1.39%)	24.0人
令和4年度	奇数月に1回(日) 15時～18時	6回	171人	1人 (0.58%)	28.5人
令和5年度	奇数月に1回(日) 15時～18時	6回	131人	1人 (0.76%)	21.8人

※実施場所：コミュニティセンターdista（MA SH大阪が運営しているコミュニティセンター）

- ・MA SH大阪が運営するコミュニティセンターdistaにて、MSM向けHIV検査（検査項目は

H I Vと梅毒)を実施した。

- ・検査時ガイダンス及び結果説明時の個別相談を実施し、主な相談内容はMA S H大阪に還元し、相談事項を共有している。

○大阪市における相談体制

＜保健所・保健福祉センターにおけるH I V・性感染症相談件数＞

年度	訪問	電話（延）	面接（延）	面接 （結果返却時）
（参考）平成 30 年度	実 8 件 延 16 件	1, 485 件	69 件	6, 675 件
（参考）令和 3 年度	実 3 件 延 3 件	564 件	8 件	4, 498 件
令和 4 年度	実 1 件 延 4 件	868 件	43 件	6, 778 件
令和 5 年度	実 2 件 延 2 件	1, 166 件	29 件	7, 052 件

＜エイズ専門相談（相談場面別）＞

年度	定例専門相談 （北・中央）	H I V検査陽 性告知時	医療機関	計
（参考）平成 30 年度	79 件	12 件	14 件	105 件
（参考）令和 3 年度	14 件	14 件	28 件	56 件
令和 4 年度	36 件	5 件	27 件	68 件
令和 5 年度	23 件	10 件	17 件	50 件

- ・定例専門相談やH I V検査陽性告知時の専門相談の件数は、検査数・陽性者数の増減に連動していると考えられ、新型コロナウイルス感染症の影響による検査数・陽性者数の減少に伴い相談件数が減少していたが、令和 4 年度は検査数の増加に伴い相談件数が増加したが、令和 5 年度は減少した。

＜外国語相談＞

- ・外国語による電話相談事業（N P O法人CHARMに委託）
対応言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語
令和 4 年度実績：131 人、令和 5 年度実績：137 人
（参考）平成 29 年度～令和 3 年度平均 186 人
- ・大阪国際交流センターによるH I V・性感染症の検査相談先の案内
対応言語：英語・中国語・韓国語・フィリピン語・ベトナム語
令和 4 年度実績：6 人、令和 5 年度実績：0 人
（参考）平成 29 年度～令和 3 年度平均 2.6 人
- ・本市ホームページは、機械翻訳により情報が閲覧できるようになっているが、本市「H I V/エイズ・性感染症ガイド」のトップページに「For foreigners」の項目を作り、上記相談窓口を多言語で案内するページを作っている。

【課題及び今後の方向性】

- ・受検者アンケートによると、全時間帯に需要があり、現在の多様な時間帯の検査体制を継続していく必要がある。
- ・引き続き検査を受けている外国人の状況について把握し、理解できる言語で検査相談が受けられるよう体制を整備していく必要がある。

(2) イベント検査・相談等の実施

令和2年度以降は、イベント検査・相談は実施していない。

【課題及び今後の方向性】

- ・イベント検査は、常設検査場の啓発ツールでもあるため、効果的なイベント検査の実施について引き続き検討を行っていく必要がある。

(3) 広報等

○検査・相談体制に関する広報

- ・本市ホームページ内「H I V/エイズ・性感染症ガイド」では、トップページに「検査情報」「相談窓口」等の項目を作成し、リンクして情報を閲覧しやすいよう工夫している。
「検査情報」ページでは、曜日・時間ごとに検索できる表や、委託検査場の予約フォームへのリンク、写真等を使った検査の流れのイメージなど、受検行動につながるような情報を掲載している。
- ・多言語版の検査・相談リーフレットを作成し、ホームページに掲載している。
- ・ホームページや紙媒体、アプリ広告、SNS等周知したい対象者に合わせて広報手段を変え、効果的に情報を伝えるように工夫している。

広 報	連 携 先
大阪市保健所 「H I V/エイズ・性感染症ガイド」(ホームページ) 「大阪市保健所H I V・性感染症情報ナビ」(X:旧 Twitter) 「osakacity_hiv_sti」(Instagram)	各NGO等団体へのリンク、「H I V 検査・相談マップ」 委託検査場「chot CAST」検査予約ページへのリンクなど
大阪市広報・区保健福祉センター ホームページ・SNS	
検査相談情報リーフレット(日本語・多言語版)	各区役所・関係機関・国際交流センターなど
H I V検査・相談マップ	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「H I V検査受検勧奨に関する研究」班
おおさかエイズ情報NOW・たんぽぽ	大阪府・府下保健所設置市
エイズのはなし	教育委員会事務局
南界堂通信	M A S H大阪
検査広報 ・チラシ、コンドーム、ティッシュなど配布 ・区役所広報紙、ポスター ・X(旧 Twitter)、MSM 向けアプリポップアップ広告	M A S H大阪、J H C、スマートらいふクリニックなど

○曝露前予防投薬(P r E P)について

- ・令和4・5年度の医療機関講習会では、曝露前予防投薬(P r E P)に関する内容を含めた講義を行った。令和5年度のアンケートでは、受講者の25.0%がP r E Pをテーマとした講習会を希望していることから、関心が高い。

- ・検査受検者へのアンケートでは、検査を受けた目的が「P r E Pのため」と回答した者は、1.7%（MSMは 5.7%）であり、セックスをするときに使うものとして「P r E P」と答えたものは、2.5%（MSMは 9.8%）であった。今後、P r E Pのために検査を受ける者が増加する可能性があり、検査受検者へ正しく情報提供ができるような体制づくりが必要である。

【課題及び今後の方向性】

- ・SNSの活用やホームページの充実などにより、若年層を中心とした幅広い層への広報を効果的に行うよう、関係機関・関係団体等に情報を得ながら取り組んでいく必要がある。
- ・研究班やNGO等と連携し、受検行動につながる周知方法を検討していく必要がある。
- ・曝露前予防投薬（P r E P）については、国の見解を注視しながら、引き続き、定期受診が可能な医療機関等に関して情報収集していく必要がある。

基本施策3 HIV陽性者の生活支援のための保健・医療・福祉の連携強化

【事業目標】

1. 保健・医療・福祉の連携により、地域におけるHIV陽性者の支援体制を整え、HIV陽性者が安心して生活できる環境づくりを行う。
2. 高齢化に伴う合併症等の問題を抱えたHIV陽性者を支援するため、長期療養の環境整備を行う。

【具体的な取り組み実績】

（1）連携体制の充実

- ・大阪市立総合医療センター主催の定例カンファレンスに参加（令和5年度 9回）。新規HIV陽性者や治療中断患者等の医療上・生活上の問題点を情報共有することを中心に、在宅支援にかかる意見交換や医療機関・施設・調剤薬局との連携に関する情報収集を行っている。
- ・エイズ治療拠点病院等からの要請に応じ、NPO法人CHARMに委託して専門カウンセラーを派遣しており、令和5年度は、延 17 件であった。
- ・HIV陽性者の療養支援については、各区保健福祉センターが適宜行っている。

（2）医療及び福祉関係者への意識啓発

○医療機関向け講習会

これまでは集合型で実施していたが、令和4年度以降、動画視聴型にて研修を行っている。
（感染症対策課結核グループと共催）

内科・呼吸器科を標榜する診療所・薬局等へ個別通知にて周知した。

- ・テーマ：HIV診療アップデート～地域で診る時代の課題と対策～

講師：市立総合医療センター 感染症内科部長 白野倫徳氏

実施期間：令和6年2月1日～2月29日

- ・アンケート回収人数：（令和4年度）221人、（令和5年度）188人

令和5年度の参加職種内訳：医師62名、薬剤師98名、看護師22名、その他6名（職種不明）
（参考）平成29年度～31年度平均：195人
（令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため未実施）

○保健所（保健福祉センター）が実施した福祉関係者への研修の実施状況

[実施人数(実施回数)]

対象	(参考)平成30年度	(参考)令和3年度	令和4年度	令和5年度
介護保険 /居宅支援事業者等	263人 (8回)	75人 (2回)	155人 (4回)	178人 (4回)
障がい福祉 /居宅支援事業者等	60人 (4回)	0人 (0回)	71人 (4回)	79人 (2回)
合計	323人 (12回)	75人 (2回)	226人 (8回)	257人 (6回)

- ・福祉関係者への研修については、包括支援センターや障がい者基幹相談支援センター、在宅医療介護連携コーディネーター等の連絡会にてプレゼンテーションを行い、実施依頼につなげている。
- ・令和5年度も、集合型・オンライン・ハイブリッド型など受講者の利便性を考慮した形式で行った。
- ・令和5年度より、福祉関係者向けオンデマンド研修として健康局YouTubeに研修動画を公開している。受講後のアンケート回答で受講者数を把握しており、144名の回答があった。

《数値目標》研修受講後、H I V陽性者の受け入れを肯定した福祉関係者を毎年70%以上にする
《評価方法》福祉関係者向けのH I V研修後のアンケートにより把握

(基礎年度) 平成29年度 ～令和2年度 実績割合(平均)	(参考) 令和3年度	年度別実績割合				
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度 (最終評価年度)
55.6%	60.0%	<u>78.1%</u> (75人/96人)	<u>73.2%</u> (71人/97人)*	—	—	—
年度別目標割合		70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上

➤ 令和5年度は、年度別目標割合を達成した。

- ・福祉関係者向け研修の受講後アンケートから、「H I V陽性者の受け入れ」について集約した。実数(*)は、(H I V陽性者を受け入れてもよいと回答した人数/アンケート回答者数)を記載した。
- ・「受け入れたくない理由」は、令和4・5年度ともに「関係者・家族等への説明が難しい」が多かった。
- ・福祉関係者のU＝Uの認知度（研修受講前）は、20.6%であった。

・「U＝Uを知って、H I V感染者やエイズ患者の受入れの不安が軽減したか」の回答状況

	不安が軽減 し抵抗が なくなった	不安が軽減したが まだ受け入れる 気持ちには なれない	あまり変わら ず不安がある	前から不安 はなかった	無回答
令和4年度	57.3%	14.6%	8.3%	13.5%	6.3%
令和5年度	66.0%	13.4%	9.3%	11.3%	0.0%

○福祉関係者向け啓発リーフレット

福祉関係者向け啓発リーフレットの周知状況（事業所数）

	介護事業者等集団指導	障がい福祉サービス事業所等集団指導
令和4年度	5,969	6,146
令和5年度	6,436	6,913

令和4年度、新たに福祉関係者向け啓発リーフレットを作成し、介護事業者等集団指導及び障がい福祉サービス事業所等集団指導にて周知した。また、本市ホームページ内「H I V／エイズ・性感染症ガイド」にも掲載した。

○区保健福祉センター職員研修区保健福祉センターが地域においてH I V陽性者の療養支援を行えるよう、保健師向けにH I Vの理解を深める研修を実施している。

	新採用保健師研修	感染症対策に関する保健師研修（基礎編）	感染症対策に関する保健師研修（応用編）
令和4年度	60名（動画）	42名（動画）	実施なし（隔年で実施）
令和5年度	43名	36名（動画）	21名（動画＋集合型）

（※聴講者を除く受講者のみ掲載）

【課題及び今後の方向性】

- ・連携が必要となった場合は、医療と介護の仲介として対応できるよう、引き続き拠点病院と連携していくことが重要である。
- ・福祉関係者への研修にて、受け入れに不安があったがU＝Uを知って不安が軽減し受け入れに抵抗がなくなった割合は74.4%であり、昨年度（71.4%）より増加し、効果的な啓発であったと言える。今後も、H I V感染症について正しく理解し、H I V陽性者に適切な支援が提供されるよう、継続した啓発の取り組みが必要である。
- ・療養支援が必要な事例については関係部局との連携を図り対応し、入所や施設利用に係り困難事例が生じた際は施設への聞き取り等により状況を把握し、必要に応じて施設職員を対象とした研修を実施していく。

<参考>受け入れに不安があったがU＝Uを知って不安が軽減し受け入れに抵抗がなくなった割合

「不安が軽減し受け入れに抵抗がなくなった」と回答した人数÷（回答者数－「前から不安なし」と回答した人数）×100
 =64÷（97-11）×100=74.4%

基本施策4 施策の実施状況とその効果の分析・評価

【事業目標】

状況の変化への迅速な対応と効果的かつ効率的な実施のために的確な評価を行える体制を整え、H I V・エイズの発生動向や施策・事業の実施状況等を調査・分析するとともに、進捗管理と対策の見直し等の検討を行う。

【具体的な取り組み実績】

(1) エイズ対策評価委員会の開催

令和5年度は、令和5年10月13日に実施し令和4年度の実績及び取り組み状況进行评估した。

(2) 関係団体・関係機関連携会議の開催

令和4年度の実績の報告及び評価、今後の対策の検討のため、N G O等関係団体と意見交換を行った。

(3) 感染症発生動向調査解析評価検討会の開催

2か月に1回、感染症発生動向調査解析評価検討会を開催し、後天性免疫不全症候群の発生動向について解析評価を実施した。